

令和5年度第1回
北九州市上下水道事業検討会

北九州市上下水道事業
中期経営計画2025の
進捗管理

(令和4年度決算・令和5年度予算)

～ 目 次 ～

1 事業計画の進捗管理

- (1) 令和4年度・5年度の主要事業 1 ページ
- (2) 主要事業の主な取組 3 ページ
- (3) 中期経営計画の目標の達成状況・達成見込 6 ページ

2 財政計画の進捗管理

- (1) 令和4年度決算の経営状況 21 ページ
- (2) 令和5年度予算の経営状況 22 ページ
- (3) 水道事業 23 ページ
- (4) 水道用水供給事業 25 ページ
- (5) 工業用水道事業 27 ページ
- (6) 下水道事業 29 ページ

1 事業計画の進捗管理

(1) 令和4年度・5年度の主要事業

「上下水道事業基本計画 2030(R3～R12)」及び「上下水道事業中期経営計画 2025 (R3～R7)」に基づき、令和4年度は、①上下水道施設の強靱化や、②環境負荷の低減、③国内外への貢献、④DXの推進を主要事業に掲げ、各施策に取り組んできました。

令和5年度においても、これら4つの取組を主要事業に位置付け、引き続き各施策に取り組めます。

【主要事業（上下水道事業中期経営計画 2025の体系図）】

将来像	重点施策	実施事業	R4 主要 事業	R5 主要 事業
	1	市民生活を支える強靱な上下水道をつくる		
	1-1	上下水道施設の長寿命化と改築・更新		
	1-1-1	アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新	●	●
	1-1-2	上下水道施設の規模の最適化	●	●
	1-2	豪雨対策の拡充・強化		
	1-2-1	浸水被害の最小化	●	●
	1-2-2	上下水道施設の豪雨対策		
	1-3	震災対策の拡充・強化		
	1-3-1	上下水道施設の耐震化	●	●
	1-3-2	バックアップ機能の強化	●	●
	1-4	危機管理体制の充実・強化		
	1-4-1	事故対応能力の向上		
	1-4-2	民間事業者や他都市等との連携強化		
	1-4-3	停電対策		●
	1-4-4	災害時における機能確保の推進	●	●
	1-4-5	自助・共助の促進に向けたソフト施策の充実		●
	2	いつでも安心して飲める安全な水を届ける		
	2-1	水源を守るための取組		
	2-1-1	水源林の保全		
	2-1-2	遠賀川の水質保全		
	2-2	取水から蛇口までの水質管理		
	2-2-1	安全な水対策		
	2-2-2	水源や浄水場を有効に活用した水の供給		
2-2-3	直結式給水の普及促進や小規模貯水槽水道の管理指導			
2-2-4	水質管理体制の充実			
3	環境負荷の低減を図り、持続可能な社会に貢献する			
3-1	環境負荷に配慮した事業の推進			
3-1-1	合流式下水道の改善推進	●	●	

将来像	重点施策	実施事業	R4 主要事業	R5 主要事業
		3-1-2 水質監視強化		●
		3-1-3 再生可能エネルギーの活用		
		3-1-4 省エネルギーの推進		●
		3-1-5 資源の有効利用	●	●
4 国内外へ貢献していく				
	4-1	上下水道事業の発展的広域化		
		4-1-1 多様な広域連携の推進	●	●
		4-1-2 外郭団体等との連携強化	●	●
	4-2	本市の技術力・経験を生かした国際貢献		
		4-2-1 上下水道技術の国際協力	●	●
		4-2-2 海外水ビジネスの推進・支援	●	●
5 お客さまが求めるものをかたちにする				
	5-1	お客さまの理解と信頼を得る		
		5-1-1 効果的な広報・広聴活動の推進		
		5-1-2 小学生を対象とした上下水道に関する情報発信		
	5-2	お客さま満足度の向上		
		5-2-1 営業業務の見直し		
		5-2-2 料金の支払や各種手続方法の拡充	●	
6 培われた高い技術を未来へつなぐ				
	6-1	職員の育成と活用		
		6-1-1 上下水道技術の継承・人材の育成		
		6-1-2 AI等を活用した技術の蓄積・継承の研究		●
		6-1-3 上下水道技術の国際協力 (再掲)	●	●
	6-2	民間事業者等との連携推進		
		6-2-1 民間事業者等との連携推進		
		6-2-2 産学官連携による研究開発の推進		
7 健全な経営を行う				
	7-1	効率的・計画的な事業運営		
		7-1-1 上下水道施設の規模の最適化 (再掲)	●	●
		7-1-2 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新 (再掲)	●	●
		7-1-3 民間事業者等との連携推進 (再掲)		
		7-1-4 AIやICTを活用した業務の効率化		●
	7-2	多様な収入の確保		
		7-2-1 資産の有効活用		
		7-2-2 水道・工業用水道利用促進対策		
		7-2-3 多様な広域連携の推進 (再掲)	●	●
	7-3	経営基盤強化に向けた検討		
		7-3-1 料金体系のあり方の検討		
		7-3-2 外部検討会の開催		

(2) 主要事業の主な取組

	R4 決算	R5 予算
上下水道施設の強靱化		
1-1 上下水道施設の長寿命化と改築・更新		
1-1-1 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新		
配水管等の更新		
配水管更新 (L=30.9km)	配水管更新 (L=32.4km)	
導送水管更新 (L=0.6km)	導送水管更新 (L=0.7km)	
浄水施設の更新		
堀越ポンプ場特高受変電設備更新 電気計装工事 など	伊佐座取水場特高受変電設備更新 電気計装工事 など	
工業用水道施設の改築更新		
城山配水池～住友金属配水管布設 替工事 など	本城浄水場小竹系沈殿池長寿命化 工事 など	
下水道施設の改築更新		
日明浄化センター中央監視装置改 良 など	日明浄化センター特高受変電設備 改良 など	
1-1-2 上下水道施設の規模の最適化		
配水ブロックの改善		
—	尾倉、黒川配水池の統廃合	
下水道施設の再編		
皇后崎浄化センターの再構築	若松ポンプ場の整備、皇后崎・北湊 処理区の再編、皇后崎浄化センター の再構築 など	
1-2 豪雨対策の拡充・強化		
1-2-1 浸水被害の最小化		
昭和町雨水貯留管 など	門司駅前雨水施設築造、上葛原二丁 目調整池 など	
1-3 震災対策の拡充・強化		
1-3-1 上下水道施設の耐震化		
浄水場・配水池の耐震化		
大蔵配水池長寿命化工事 など	小熊野第一配水池の耐震化工事 など	
水道管路の耐震化《再掲》		
配水管等の更新	配水管等の更新	
浄化センター、ポンプ場の耐震化		
門司港ポンプ場耐震補強 など	払川ポンプ場耐震補強工事 など	

	R4 決算	R5 予算
	下水道管渠の耐震化	
	老松二丁目地内他（東二島北湊主要幹線）管渠更生 など	日明遮集幹線、東二島北湊主要幹線管渠更生 など
	1-3-2 バックアップ機能の強化	
	八重洲分岐～城野分岐送水管整備 実施設計 など	八重洲～城野分岐送水管整備 など
	1-4 危機管理体制の充実・強化	
	1-4-3 停電対策	
	—	山ノ岬ポンプ場非常用発電機整備 工事
	1-4-4 災害時における機能確保の推進	
	応急給水施設整備 など	応急給水施設整備 工事
		マンホールトイレの整備
	1-4-5 自助・共助の促進に向けたソフト施策の充実	
	—	内水浸水想定区域図の拡充、雨水タンク助成事業
環境負荷の低減		
	3-1 環境負荷に配慮した事業の推進	
	3-1-1 合流式下水道の改善推進	
	日明浄化センター合流改善施設整備、皇后崎浄化センター合流改善施設整備 など	清田地内・西本町地内・屋敷地内、日明浄化センター合流改善施設 など
	3-1-2 水質監視強化	
	—	下水処理に影響を及ぼす物質の監視強化
	3-1-4 省エネルギーの推進	
	—	穴生浄水場東西系送水ポンプ更新 工事 など
	3-1-5 資源の有効利用	
	水道メーターの再資源化	下水汚泥の肥料化

	R4 決算	R5 予算
国内外への貢献		
4-1 上下水道事業の発展的広域化		
4-1-1 多様な広域連携の推進		
	広域連携に係る工法検討業務委託、水道広域セミナー など	広域連携に係る工法検討業務委託、水道広域セミナー など
4-1-2 外郭団体等との連携強化		
	宗像地区水道施設維持管理等業務委託	宗像地区水道施設維持管理等業務委託
4-2 本市の技術力・経験を生かした国際貢献		
4-2-1 上下水道技術の国際協力		
	海外技術者育成に係る研修員受入れ など	海外技術者育成に係る研修員受入れ など
4-2-2 海外水ビジネスの推進・支援		
	国際技術協力や企業の海外水ビジネス支援	国際技術協力や企業の海外水ビジネス支援
DX の推進		
5-2 お客さま満足度の向上		
5-2-2 料金の支払や各種手続方法の拡充		
	口座振替インターネット手続きの導入	—
6-1 職員の育成と活用		
6-1-2 AI 等を活用した技術の蓄積・継承の研究		
	—	A I を活用した水道管劣化診断の導入調査 衛星画像と A I を活用した漏水調査
7-1 効率的・計画的な事業運営		
7-1-4 AI や ICT を活用した業務の効率化		
	—	給水装置工事及び排水設備工事申請の電子化 工事立会受付 W E B システムの導入
その他		
	ドローンを活用した水管橋の点検強化	—

(3) 中期経営計画の目標（再掲除く）の達成状況・達成見込

評価内容	R4決算 達成状況		R5予算 達成見込	
	件数	構成比	件数	構成比
a 大変良い状況にある	89	79.5%	106	94.6%
概ね良い状況にある	18	16.1%	5	4.5%
b 新型コロナウイルス感染症による影響分以外	14	12.5%	5	4.5%
b' 新型コロナウイルス感染症による影響分	4	3.6%	0	0.0%
概ね良い状況とまでは言えない	3	2.7%	1	0.9%
c 新型コロナウイルス感染症による影響分以外	2	1.8%	1	0.9%
c' 新型コロナウイルス感染症による影響分	1	0.9%	0	0.0%
不十分な状況にある	2	1.8%	0	0.0%
d 新型コロナウイルス感染症による影響分以外	1	0.9%	0	0.0%
d' 新型コロナウイルス感染症による影響分	1	0.9%	0	0.0%
合計	112	100%	112	100%

【達成状況の判定目安】

- a：大変良い状況にある (100%以上)
- b：概ね良い状況にある (60%以上、100%未満)
- C：概ね良い状況とまでは言えない (40%以上、60%未満)
- d：不十分な状況にある (40%未満)

※R4 年度決算については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて
a 以外となった項目については、 b' ・ c' ・ d'

◆R4 年度決算達成状況において c 評価、 d 評価のものについて
(新型コロナウイルス感染症による影響分除く)

水道 1-1-1 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新

導送水管更新 (8 ページ) 評価 c

昨今の物価上昇等による事業費の高騰により、市民生活に直結する配水管更新事業を優先し、計画通りの発注が行えなかったことや R5 年度への繰越により目標を下回ったもの。

計画上の目標：累計 3.9km 更新 ⇒ 実績：累計 2.1km 更新

水道 1-3-2 バックアップ機能の強化

八重洲分岐～城野分岐 送水管 2 条化 (9 ページ) 評価 d

昨今の物価上昇等による事業費の高騰により、市民生活に直結する配水管更新事業を優先し、計画通りの発注が行えず目標を下回ったもの。

計画上の目標：累計 0.6km 整備 ⇒ 実績：累計 0.2km 整備

下水道 1-1-1 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新

下水道管渠の改築・更新 (13 ページ) 評価 c

腐食が進行する圧送管などの改築更新を最優先で進めたため、工事費が増大し、計画上の目標を下回ったもの。

引き続き、国の交付金を最大限活用しながら、腐食のリスクの高い路線を中心に改築更新を進めていく。

計画上の目標：累計 44.5km 更新 ⇒ 実績：累計 25.6km 更新

【参考】将来像ごとの内訳

将来像	R4年度決算							R5年度予算			
	a	b	b'	c	c'	d	d'	a	b	c	d
1 市民生活を支える強靱な上下水道をつくる	40	7		2		1		46	4		
2 いつでも安心して飲める安全な水を届ける	9		1				1	11			
3 環境負荷の低減を図り、持続可能な社会に貢献する	17	5						22			
4 国内外へ貢献していく	4		2		1			6		1	
5 お客さまが求めるものをかたちにする	8							7	1		
6 培われた高い技術を未来へつなぐ	6	1						7			
7 健全な経営を行う	5	1	1					7			
合計	89	14	4	2	1	1	1	106	5	1	0

中期経営計画実施事業 R4年度達成状況・R5年度達成見込

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和3年度 決算		令和4年度 決算			令和5年度 予算		
				項目	目標	目標年度	単年度の 結果	取組内容	単年度の 結果	取組内容	達成 状況	単年度の 目標	取組内容	達成 見込
上水道事業														
1 市民生活を支える強靱な上下水道をつくる														
1-1 上下水道施設の長寿命化と改築・更新														
1-1-1 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新														
5年間の事業費(計画) 35,524百万円				R3事業費 6,485百万円		R4事業費 7,364百万円			R5事業費 8,208百万円					
	浄水施設の 長寿命化	5箇所	R7	1箇所着手	本城浄水場ろ過池の 長寿命化工事ほかに着手	1箇所完了	本城浄水場ろ過池の 長寿命化完了	a	2箇所着手 (累計3箇所)	本城浄水場辰水池・排泥池 の長寿命化他	a			
	配水池の長寿命化	9箇所	R7	2箇所実施	大蔵配水池、皿山配水池長 寿命化工事実施 (畑第2、椎ノ木配水池劣化 診断実施)	1箇所完了 2箇所診断完了 (累計4箇所)	大蔵配水池長寿命化工事完 了、笹尾配水池・永犬丸配 水池劣化診断完了	a	2箇所実施 (累計6箇所)	畑第二配水池、椎ノ木配水 池長寿命化工事実施	a			
	マッピング システムの 機能強化	一元管理	R7	詳細検討 機能改良	6項目台帳一元化に向けての 検討 工事管理機能・消火栓番号 表示機能 追加	機能強化1項目 実施中	減圧弁の点検情報について の機能強化等実施	b	機能強化 2項目	流量計・水圧計の点検情報 についての機能強化等実施	a			
	導送水管更新	6.7km	R7	1.5km更新	導水管更新 0.3km 送水管更新 1.2km	0.6km更新 (累計2.1km)	送水管更新 0.6km	c	0.7km更新 (累計3.9km)	導水管更新 設計委託 送水管更新 0.7km更新	b			
	配水管更新	185km	R7	31.6km更新	配水管更新 31.6km	30.9km更新 (累計62.5km)	配水管更新 30.9km	b	32.4km更新 (累計102.5km)	配水管更新 32.4km	b			
	漏水率	6.0%以下	R7	漏水率 6.09%	漏水調査 3,034km 配水管更新 31.6km	漏水率 6.45%	漏水調査 2,349km 配水管更新 30.9km	a	漏水率 6.4%以下	漏水調査 2,400km 配水管更新 32.4km	a			
1-1-2 上下水道施設の規模の最適化														
5年間の事業費(計画) 262百万円				R3事業費 0百万円		R4事業費 12百万円			R5事業費 66百万円					
	配水池の統廃合 (尾倉)	尾倉配水池 廃止	R6	基本計画 策定中	尾倉及び黒川統廃合に向け た基本計画策定についての 委託発注	基本計画策定 実施設計発注	尾倉及び黒川統廃合に向け た配水管整備の実施設計を 発注	b	0.3km整備 (累計0.3km)	配水管整備 L=0.3km	a			
	配水池の統廃合 (黒川)	工事実施	R7					b	0.2km整備 (累計0.2km)	配水管整備 L=0.2km	a			
	水需要予測及び 施設規模の検討	検討内容の中間 取りまとめ	R7	推進	水需要予測・施設規模 の検討	推進	水需要予測・施設規模の 検討	a	推進	水需要予測・施設規模の 検討	a			
1-2 豪雨対策の拡充・強化														
1-2-2 上下水道施設の豪雨対策														
5年間の事業費(計画) 132百万円				R3事業費 8百万円		R4事業費 21百万円			R5事業費 25百万円					
	豪雨対策施設整備	5箇所	R7	1箇所着手 1箇所設計	山ノ神ポンプ場の減災・防 災工事及び本城浄水場浸水 対策設計	2箇所目着手 (累計1箇所)	本城浄水場(1箇所)の 減災・防災工事	a	2箇所目 整備継続 (累計1箇所)	本城浄水場(1箇所)の 減災・防災工事及び 次年度整備箇所の設計	a			

中期経営計画実施事業 R4年度達成状況・R5年度達成見込

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和3年度 決算		令和4年度 決算			令和5年度 予算						
				項目	目標	目標年度	単年度の 結果	取組内容	単年度の 結果	取組内容	達成 状況	単年度の 目標	取組内容	達成 見込				
				1-3 震災対策の拡充・強化														
				1-3-1 上下水道施設の耐震化														
				5年間の事業費(計画) 27,669百万円			R3事業費	5,569百万円	R4事業費	5,579百万円	R5事業費	5,839百万円						
				浄水場耐震化率	59.2%	R7	59.2%	関係機関と協議を実施	59.2%	本城浄水場の小竹系沈殿池などにかかる実施設計等を実施	a	59.2% (工事完了のR10で77.5%)	本城浄水場の戻水池・排泥池の耐震化工事等	a				
				配水池の耐震化率	60.1%	R7	56.0%	皿山配水池耐震化工事 小熊野第一配水池耐震診断	55.7%	小熊野第一配水池耐震化実施設計	a	57.7%	小熊野第一配水池耐震化工事実施	a				
				危険箇所整備	2箇所 (累計10箇所)	R5	1箇所着手 累計9箇所 目着手	現場踏査前の伐採及び 整地作業	検討業務委託	配水池の現状把握	a	1箇所整備 (累計10箇所)	道原配水池の対策工事 実施	b				
				基幹管路の耐震 適合率	51.6%	R7	50.4%	導水管の耐震化 0.3km 送水管の耐震化 1.2km 配水本管の耐震化 0.4km	50.6%	送水管の耐震化 0.6km 配水本管の耐震化 0.1km	a	51.5%	導水管の耐震化 設計委託 送水管の耐震化 0.7km 配水本管の耐震化 3.0km	a				
				広域避難地等に 至る配水管の 耐震化	9箇所 (累計26箇所)	R7	4箇所完了 (累計21箇所)	配水管耐震化工事	1箇所完了 (累計22箇所)	配水管耐震化工事	a	2箇所完了 (累計26箇所)	配水管耐震化工事	a				
				1-3-2 バックアップ機能の強化														
				5年間の事業費(計画) 1,303百万円			R3事業費	468百万円	R4事業費	21百万円	R5事業費	220百万円						
				八重洲分岐 ～城野分岐 送水管2条化	完了	R7	0.2km整備	送水管整備工事	実施設計	送水管整備工事実施設計	d	0.1km整備	送水管整備工事	b				
				井手浦系配水本管 のループ化	完了	R7	0.1km整備	配水本管整備	実施設計	配水本管整備実施設計	b	0.2km整備	配水本管整備	a				
				1-4 危機管理体制の充実・強化														
				1-4-1 事故対応能力の向上														
				5年間の事業費(計画) -			R3事業費	-	R4事業費	-	R5事業費	-						
模擬事故訓練 (局全体)	1回	毎年	1回	模擬事故訓練実施	1回	模擬事故訓練実施	a	1回	模擬事故訓練実施	a								
模擬事故訓練 (水道部)	2回	毎年	2回	模擬事故訓練実施	2回	模擬事故訓練実施	a	2回	模擬事故訓練実施	a								
危機管理研修 (水道部)	3回	毎年	3回	危機管理研修実施	3回	危機管理研修実施	a	3回	危機管理研修実施	a								

中期経営計画実施事業 R4年度達成状況・R5年度達成見込

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和3年度 決算		令和4年度 決算			令和5年度 予算					
				項目	目標	目標年度	単年度の 結果	取組内容	単年度の 結果	取組内容	達成 状況	単年度の 目標	取組内容	達成 見込			
				1-4-2 民間事業者や他都市等との連携強化			R3事業費		R4事業費			R5事業費					
				5年間の事業費(計画)			-			-					-		
				日本水道協会九州 地方支部間での 合同防災訓練	1回	毎年	1回	合同防災訓練実施 (九州九都市参加)	1回	合同防災訓練実施 (九州九都市参加)	a	1回	合同防災訓練実施 (九州九都市参加)	a			
				日本水道協会九州 地方支部間での 情報伝達訓練	1回	毎年	1回	情報伝達訓練実施 (九州九都市参加)	1回	情報伝達訓練実施 (九州九都市参加)	a	1回	情報伝達訓練実施 (九州九都市参加)	a			
				19大都市間での 情報伝達訓練	1回	毎年	1回	情報伝達訓練実施 (19大都市参加)	1回	情報伝達訓練実施 (19大都市参加)	a	1回	情報伝達訓練実施 (19大都市参加)	a			
				1-4-3 停電対策			R3事業費		R4事業費			R5事業費					
				5年間の事業費(計画)			325百万円		0百万円	155百万円			128百万円				
				非常用発電設備 整備	7箇所 (累計15箇所)	R7	3箇所着手	本城管理棟、本城第2 ポンプ棟、伊左座取水場 に非常用発電設備整備	1箇所着手 累計12箇所 目着手	山ノ岬ポンプ場の非常用 発電設備整備工事着手 (R5年度完了予定)	a	1箇所の 整備継続 (累計12箇所)	山ノ岬ポンプ場の非常用 発電設備整備工事実施	a			
				1-4-4 災害時における機能確保の推進			R3事業費		R4事業費			R5事業費					
				5年間の事業費(計画)			176百万円		20百万円	31百万円			18百万円				
				応急給水施設整備	6箇所	R7	応急給水 計画策定	運搬給水を基本とした 現計画の見直し	基本設計	施設整備基本設計業務委託	a	1箇所整備	東部工事事務所に応急 給水塔整備工事実施	a			
				非常用給水袋備蓄	5万枚	毎年	5万枚維持	使用実績に応じて必要数 を購入し、5万枚を維持	5万枚維持	使用実績に応じて必要数 を購入し、5万枚を維持	a	5万枚維持	使用実績に応じて必要数 を購入し、5万枚を維持	a			
				給水車運転資格 取得支援者数	25人	R7	5人	平成19年度運転免許制度 改正に伴い、準中型免許 取得支援	4人 (累計9人)	平成19年度運転免許制度 改正に伴い、準中型免許 取得支援	a	5人 (累計15人)	平成19年度運転免許制度 改正に伴い、準中型免許 取得支援	a			
				2 いつでも安心して飲める安全な水を届ける			R3事業費		R4事業費			R5事業費					
				2-1 水源を守るための取組			R3事業費		R4事業費			R5事業費					
2-1-1 水源林の保全			R3事業費		R4事業費			R5事業費									
5年間の事業費(計画)			41百万円		0百万円	1百万円			6百万円								
市民参加人数	360人以上	毎年	0人	新型コロナウイルス感染症 の影響で、水源地域での植 樹・育樹活動未実施	0人	新型コロナウイルス感染症 の影響で、水源地域での植 樹・育樹活動未実施	d'	360人以上	水源地域での植樹・育樹 活動	a							
2-1-2 遠賀川の水質保全			R3事業費		R4事業費			R5事業費									
5年間の事業費(計画)			48百万円		7百万円	7百万円			10百万円								
遠賀川環境保全 活動団体への支援	40団体以上	毎年	38団体	住民団体等による遠賀川 流域の環境保全活動・ 普及啓発活動に対する支援	38団体	住民団体等による遠賀川 流域の環境保全活動・ 普及啓発活動に対する支援	b'	40団体以上	住民団体等による遠賀川 流域の環境保全活動・ 普及啓発活動に対する支援	a							
水質保全に向けた 関連協議会への 参加	2団体	毎年	2団体	遠賀川水系水環境保全・再 生推進協議会 及び 遠賀川 水系水道事業者連絡協議会 に参加	2団体	遠賀川水系水環境保全・再 生推進協議会 及び 遠賀川 水系水道事業者連絡協議会 に参加	a	2団体	遠賀川水系水環境保全・ 再生推進協議会 及び 遠賀川水系水道事業者 連絡協議会 に参加	a							

中期経営計画実施事業 R4年度達成状況・R5年度達成見込

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和3年度 決算		令和4年度 決算			令和5年度 予算		
				項目	目標	目標年度	単年度の 結果	取組内容	単年度の 結果	取組内容	達成 状況	単年度の 目標	取組内容	達成 見込
				2-2 取水から蛇口までの水質管理										
				2-2-1 安全な水対策										
				5年間の事業費(計画) 277百万円			R3事業費	0	R4事業費	68百万円	R5事業費	37百万円		
				水安全計画の レビュー (見直し)	5件	毎年	5件	各浄水場で1件	5件	年度末に各浄水場(井手浦、道原、穴生、畑、本城)で定期レビューを実施	a	5件	各浄水場で1件	a
				水処理の 調査・研究	1件以上	毎年	1件	水道研究会発表レベルの案件として、本城浄水場高度処理技術(U-BCF)の検証についてブラッシュアップ	1件	日本水道協会 水道研究会発表で「遠賀川で発生したかび臭物質産生藍藻類の塩素処理」を発表	a	1件以上	浄水技術の向上、分析技術の向上、高機能粉末活性炭の導入・効果検証等	a
				2-2-2 水源や浄水場を有効に活用した水の供給										
				5年間の事業費(計画) -			R3事業費	-	R4事業費	-	R5事業費	-		
				貯水状況に応じた 東西応援	実施	毎年	実施	貯水量 多 ⇒東部：増、西部：減 貯水量 少 ⇒東部：減、西部：増	実施	貯水状況に応じて東西応援を実施	a	実施	貯水量 多 ⇒東部：増、西部：減 貯水量 少 ⇒東部：減、西部：増	a
				2-2-3 直結式給水の普及促進や小規模貯水槽水道の管理指導										
				5年間の事業費(計画) 130百万円			R3事業費	3百万円	R4事業費	18百万円	R5事業費	15百万円		
				小規模貯水槽水道 の文書指導、直結 式給水のPR	設置者全件 (約3,000件)	毎年	設置者全件 (2,500件)	貯水槽水道管理水準向上のため、設置者(全件)へ文書指導実施	設置者全件 (2,450件)	貯水槽水道管理水準向上のため、設置者(全件)へ文書指導実施	a	設置者全件 (約3,000件)	貯水槽水道管理水準向上のため、設置者(全件)へ文書指導実施	a
				2-2-4 水質管理体制の充実										
				5年間の事業費(計画) 142百万円			R3事業費	18百万円	R4事業費	31百万円	R5事業費	27百万円		
				水道GLPの 継続認定取得	継続取得	毎年	継続取得	分析技術や精度管理の向上に努め、水道水の信頼性確保	継続取得	分析技術や精度管理の向上に努め、水道水の信頼性確保	a	継続取得	分析技術や精度管理の向上に努め、水道水の信頼性確保	a
				外部精度管理結果 (良好判定)取得	2項目以上	毎年	2項目	全ての項目において、良好判定取得	2項目	全ての項目において、良好判定取得	a	2項目以上	良好判定取得	a
				新たな検査項目 の設定、監視	5項目	毎年	11項目	11項目全てで目標値未滿	9項目	9項目全てで目標値未滿	a	1件	新たな検査項目を1項目設定	a
				新たな情報 コンテンツの発信	2件	R7	2件	上下水道局キッズサイトへの水質実験動画(2件)の提供	0件 (累計2件)	R3に上下水道局キッズサイトへの水質実験動画(累計2件)提供済	a	累計2件	学校や自宅等でもできる水質浄化実験の紹介小学生が理解できる水質検査結果の解説等	a
				3 環境負荷の低減を図り、持続可能な社会に貢献する										
				3-1 環境負荷に配慮した事業の推進										
				3-1-3 再生可能エネルギーの活用										
				5年間の事業費(計画) -			R3事業費	-	R4事業費	-	R5事業費	-		
				再生可能 エネルギー利用率	15%以上	毎年	15.9%	既設の水力発電設備、太陽光発電設備の活用	9.6%	既設の水力発電設備、太陽光発電設備の活用	b	15%以上	既設の水力発電設備、太陽光発電設備の活用	a

中期経営計画実施事業 R4年度達成状況・R5年度達成見込

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和3年度 決算		令和4年度 決算			令和5年度 予算			
				項目	目標	目標年度	単年度の 結果	取組内容	単年度の 結果	取組内容	達成 状況	単年度の 目標	取組内容	達成 見込	
				二酸化炭素 排出量削減 (H17年度比)	2,200t	毎年	3,128t	H17年度比	1,915t	H17年度比	b	2,200t	H17年度比	a	
				新たな再生可能 エネルギーの 調査・研究	実施	毎年	実施	脱炭素化の局内ワーキング 4回実施	実施	太陽光発電、小水力発電の 活用検討	a	実施	関係課において脱炭素化の 取組を継続して調査・研究	a	
				3-1-4 省エネルギーの推進 5年間の事業費(計画) 421百万円			R3事業費 0百万円		R4事業費 0百万円			R5事業費 10百万円			
				電力使用量	過去5年 平均以下	毎年	過去5年平均よ り微増	設備の更新や能力の適正化 を実施	過去5年平均 より微増	設備の更新や能力の適正化 を実施	b	過去5年 平均以下	設備の更新や能力の適正化 を実施	a	
				二酸化炭素 排出量削減 (H17年度比)	3,000t/年	R7	2,600t/年	穴生浄水場送水ポンプ更新	2,600t/年	穴生浄水場送水ポンプ更新 (R7までに3,000t/年削減予 定)	b	2,700t/年	穴生浄水場送水ポンプ更新	a	
				新たな 省エネルギー対策 の調査・研究	実施	毎年	実施	脱炭素化の局内ワーキング 4回実施	実施	電力契約方法と電力ピーク シフトの検討	a	実施	関係課において脱炭素化の 取組を継続して調査・研究	a	
				3-1-5 資源の有効利用 5年間の事業費 22百万円			R3事業費 3百万円		R4事業費 2百万円			R5事業費 4百万円			
				浄水汚泥の有効 利用	100%	毎年	100%	汚泥の有効利用実施	100%	汚泥の有効利用実施	a	100%	汚泥の有効利用実施	a	
				廃棄水道メー ターの再資源化	100%	毎年	100%	廃棄水道メー ターの再資源化	100%	廃棄水道メー ターの再資源 化実施	a	100%	廃棄水道メー ターの再資源 化実施	a	
				7 健全な経営を行う											
				7-1 効率的・計画的な事業運営											
				7-1-1 上下水道施設の規模の最適化			1-1-2 再掲			1-1-2 再掲			1-1-2 再掲		
				7-1-2 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新			1-1-1 再掲			1-1-1 再掲			1-1-1 再掲		
				7-2 多様な収入の確保											
				7-2-2 水道・工業用水道利用促進対策 5年間の事業費(計画) -			R3事業費 -		R4事業費 -			R5事業費 -			
				水道水の利用促進 にかかるPRの 実施	推進	毎年	推進	大口使用者特割制度の企業 へのPR・安価な料金につ いてイベント等でのPRを実施 (イベント一部未実施)	推進	大口使用者特割制度の企業 へのPR・安価な料金につ いてイベント等でのPRを実施 (イベント一部未実施)	b'	推進	大口使用者特割制度の企業 へのPR・安価な料金につ いてイベント等でのPRを実施	a	
				工業用水道事業											
				1 市民生活を支える強靱な上下水道をつくる											
				1-1 上下水道施設の長寿命化と改築・更新											
				1-1-1 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新 5年間の事業費(計画) 4,217百万円			R3事業費 644百万円		R4事業費 700百万円			R5事業費 1,328百万円			
				浄水施設の 長寿命化	3箇所	R7	管理棟等の 長寿命化 実施	本城管理棟などの長寿命化 工事を実施	管理棟等の 長寿命化 実施	小竹系沈殿池の設計に着 手、本城排水処理棟の長寿 命化工事等実施	a	2箇所着手	本城浄水場の排泥池と小竹 系沈殿池の長寿命化工事等 実施	a	

中期経営計画実施事業 R4年度達成状況・R5年度達成見込

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和3年度 決算		令和4年度 決算			令和5年度 予算			
				項目	目標	目標年度	単年度の結果	取組内容	単年度の結果	取組内容	達成状況	単年度の目標	取組内容	達成見込	
				工業用水道管路の更新	4.3km	R7	1.2km更新	工業用水道管路の更新	0.6km更新 (累計1.8km)	工業用水道管路の更新	b	1.8km更新 (累計3.4km)	工業用水道管路の更新	a	
				1-3 震災対策の拡充・強化											
				1-3-1 上下水道施設の耐震化				1-1-1 再掲		1-1-1 再掲			1-1-1 再掲		
				7 健全な経営を行う											
				7-1 効率的・計画的な事業運営											
				7-1-2 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新				1-1-1 再掲		1-1-1 再掲			1-1-1 再掲		
				7-1-4 AIやICTを活用した業務の効率化											
				5年間の事業費(計画)			-	R3事業費	-	R4事業費	-		R5事業費	-	
				スマート検針システム運用	開始	R3	開始	本格運用開始	R3開始済	-	a	R3開始済	-	a	
				7-2 多様な収入の確保											
				7-2-2 水道・工業用水道利用促進対策											
				5年間の事業費(計画)			-	R3事業費	-	R4事業費	-		R5事業費	-	
				新規または増量件数	5件	R7	2件	PR活動の実施	1件 (累計3件)	PR活動の実施	a	1件 (累計4件)	PR活動の実施	a	
				下水道事業											
				1 市民生活を支える強靱な上下水道をつくる											
				1-1 上下水道施設の長寿命化と改築・更新											
				1-1-1 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新											
				5年間の事業費(計画)			20,834百万円	R3事業費	3,721百万円	R4事業費	3,961百万円		R5事業費	4,790百万円	
				浄化センター・ポンプ場設備の計画的な改築・更新	120設備 (24設備/年)	R7	24設備	改築・更新(電気・機械設備機器)実施	17設備 (累計41設備)	改築・更新(電気・機械設備機器)実施	a	27設備 (累計75設備)	改築・更新(電気・機械設備機器)実施	a	
				下水道管渠の点検調査	550km (110km/年)	R7	99.4km	点検・調査(TVカメラ調査等)実施	113.4km	点検・調査(TVカメラ調査等)実施	a	110km (累計319.4km)	点検・調査(TVカメラ調査等)実施	a	
				下水道管渠の改築・更新	115km (23km/年)	R7	13.5km	改築・更新(管更生工事等)実施	12.1km (累計25.6km)	改築・更新(管更生工事等)実施	c	23km (累計59.5km)	改築・更新(管更生工事等)実施	a	
				1-1-2 上下水道施設の規模の最適化											
				5年間の事業費(計画)			7,992百万円	R3事業費	10百万円	R4事業費	651百万円		R5事業費	890百万円	
				皇后崎・北湊処理区の再編	再編完了	R7	着手	下水道管の新設に係る実施設計	工事実施	下水道管の新設工事実施	a	工事実施	下水道管の新設工事実施	a	
				皇后崎浄化センターの再構築	3系統のうち1系統の集約化完了	R7	実施	改築・更新(第二処理場・最初沈殿池)	工事実施	第二処理場最初沈殿池の水処理設備の改築工事等実施	a	工事及び実施設計	改築工事(最初沈殿池)、実施設計(エアレーションタンク・最終沈殿池)	a	

中期経営計画実施事業 R4年度達成状況・R5年度達成見込

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和3年度 決算		令和4年度 決算			令和5年度 予算		
				項目	目標	目標年度	単年度の結果	取組内容	単年度の結果	取組内容	達成状況	単年度の目標	取組内容	達成見込
				中川通ポンプ場の移転改築	工事着手	R7	実施	都市計画決定・事業計画変更	実施	都市計画決定・事業計画変更	a	実施(基本)設計	実施(基本)設計実施	a
				施設規模と機能の最適化	新町・日明処理区の検討着手	R7	R4以降	-	検討業務実施	再構築に向けた検討業務委託実施	a	検討業務(基本設計)	再構築に向けた検討業務委託(基本設計)実施	a
1-2 豪雨対策の拡充・強化														
1-2-1 浸水被害の最小化														
				5年間の事業費(計画)	14,320百万円		R3事業費	3,704百万円	R4事業費	3,615百万円		R5事業費	2,890百万円	
				重点整備地区(16地区)のうち9地区の整備	9地区整備完了	R7	実施	天籟寺地区の整備 昭和町地区の整備	2地区(累計3地区)整備完了	今町一丁目地区・篠崎一丁目地区の整備完了 昭和町地区等の整備	a	2地区(累計5地区)整備完了	門司駅前地区・昭和町地区の整備完了 上葛原二丁目地区等の整備	a
1-2-2 上下水道施設の豪雨対策														
				5年間の事業費(計画)	-		R3事業費	63百万円	R4事業費	0百万円		R5事業費	40百万円	
				耐水化計画の策定	完了	R3	完了	浸水リスクの高い下水道施設を対象に策定	R3策定済	-	a	R3策定済	-	a
				耐水化計画に基づく浸水防止設備の整備	実施	R7	R4以降	-	対策手法の検討完了	耐水化にかかる対策手法の検討	a	耐水化対策工事実施	大手町ポンプ場・楠橋ポンプ場の耐水化対策工事	a
1-3 震災対策の拡充・強化														
1-3-1 上下水道施設の耐震化														
				5年間の事業費(計画)	11,150百万円		R3事業費	2,822百万円	R4事業費	1,380百万円		R5事業費	1,783 [2,027] 百万円	
				重要な15ポンプ場の耐震化率	73.3%	R7	20.0%	則松ポンプ場等の耐震補強工事実施	46.7%	門司港ポンプ場等の耐震補強工事実施	a	53.3%	弘川ポンプ場等の耐震補強工事実施	a
				重要な管渠の耐震化率	50.7%	R7	48.4%	重要な管渠の耐震化(約7km)実施	48.6%	重要な管渠の耐震化(約3km)実施	a	49.2%	重要な管渠の耐震化(約7km)実施	a
1-4 危機管理体制の充実・強化														
1-4-1 事故対応能力の向上														
				5年間の事業費(計画)	-		R3事業費	-	R4事業費	-		R5事業費	-	
				模擬事故訓練(局全体)	1回	毎年	1回	模擬事故訓練実施	1回	模擬事故訓練実施	a	1回	模擬事故訓練実施	a
				模擬事故訓練(下水道部)	1回	毎年	1回	模擬事故訓練実施	1回	模擬事故訓練実施	a	1回	模擬事故訓練実施	a

中期経営計画実施事業 R4年度達成状況・R5年度達成見込

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和3年度 決算		令和4年度 決算			令和5年度 予算		
				項目	目標	目標年度	単年度の 結果	取組内容	単年度の 結果	取組内容	達成 状況	単年度の 目標	取組内容	達成 見込
				危機管理研修 (下水道部)	1回	毎年	1回	危機管理研修実施	1回	危機管理研修実施	a	1回	危機管理研修実施	a
				1-4-2 民間事業者や他都市等との連携強化 5年間の事業費(計画)			R3事業費		R4事業費			R5事業費		
				地元民間事業者 との訓練	1回	毎年	1回	地元民間事業者との訓練 実施 (設計コンサルタント等)	1回	地元民間事業者との訓練 実施 (設計コンサルタント等)	a	1回	地元民間事業者との訓練 実施 (設計コンサルタント等)	a
				21大都市間情報 連絡訓練	1回	毎年	1回	大都市間情報連絡訓練 実施 (21大都市参加)	1回	大都市間情報連絡訓練 実施 (21大都市参加)	a	1回	大都市間情報連絡訓練 実施 (21大都市参加)	a
				被災を想定した 他都市との合同 訓練	1回	毎年	0回	未実施	1回	他都市との訓練実施	a	1回	他都市との訓練実施	a
				1-4-4 災害時における機能確保の推進 5年間の事業費(計画)			R3事業費		R4事業費			R5事業費		
				マンホールトイレ の整備 (累計)	1箇所/年 (累計11箇所)	R7	1箇所 (累計7箇所)	中央公園の整備	0箇所 (累計7箇所)	本城公園の整備 (実施設計)	b	1箇所 (累計9箇所)	大里公園の整備	a
				1-4-5 自助・共助の促進に向けたソフト施策の充実 5年間の事業費(計画)			R3事業費		R4事業費			R5事業費		
				内水浸水想定 区域図の拡充	完了	R7	実施	内水浸水想定区域図の拡充	実施	内水浸水想定区域図 (紫川流域等)の作成	a	実施	内水浸水想定区域図 (竹馬川流域等)の作成	a
				出前講演による 周知	2件	毎年	3件	浸水被害軽減のための出前 講演実施	3件	浸水被害軽減のための 出前講演実施	a	2件	浸水被害軽減のための 出前講演実施	a
				3 環境負荷の低減を図り、持続可能な社会に貢献する										
				3-1 環境負荷に配慮した事業の推進										
				3-1-1 合流式下水道の改善推進 5年間の事業費(計画)			R3事業費		R4事業費			R5事業費		
				合流改善達成率	100%	R5	84%	分流化(日明・皇后崎処理 区)、簡易処理の高度化 (日明・皇后崎浄化セン ター)	93%	分流化(日明・皇后崎処理 区)、簡易処理の高度化 (日明・皇后崎浄化セン ター)	a	100%	分流化(日明・皇后崎処理 区)、簡易処理の高度化 (日明・皇后崎浄化セン ター)	a
				3-1-2 水質監視強化 5年間の事業費(計画)			R3事業費		R4事業費			R5事業費		
				浄化センターから の放流水質基準 違反件数	0件	毎年	0件	放流水中の有害物質・生活 環境項目等の実態把握	0件	放流水中の有害物質・生活 環境項目等の実態把握	a	0件	放流水中の有害物質・生活 環境項目等の実態把握	a

中期経営計画実施事業 R4年度達成状況・R5年度達成見込

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和3年度 決算		令和4年度 決算			令和5年度 予算		
				項目	目標	目標年度	単年度の結果	取組内容	単年度の結果	取組内容	達成状況	単年度の目標	取組内容	達成見込
				工場等への立入検査	対象事業場等の半数(200件超)	毎年	202件	届出内容や水質管理状況について立入検査実施	219件	届出内容や水質管理状況について立入検査実施	a	対象事業場等の半数	届出内容や水質管理状況について立入検査実施	a
				工場等への水質検査	対象事業場等について2回以上(500件程度)	毎年	500件	事業場排水の水質検査実施	522件	事業場排水の水質検査実施	a	対象事業場等について2回以上(500件程度)	事業場排水の水質検査実施	a
				水質管理講習会実施	1回	毎年	1回	法規制の周知、下水道の適切な利用に関する啓発実施	1回	法規制の周知、下水道の適切な利用に関する啓発実施	a	1回	法規制の周知、下水道の適切な利用に関する啓発実施	a
				水質改善の調査・研究	1件	毎年	2件	疑似嫌気好気法運転におけるりん除去とPHAの挙動について	1件	疑似嫌気好気法運転におけるりん除去に関する調査研究	a	1件	疑似嫌気好気法活性汚泥法での低負荷条件における原生動物等の出現状況	a
3-1-3 再生可能エネルギーの活用				5年間の事業費(計画)			-	R3事業費	-	R4事業費	-	R5事業費	40百万円	
				再生可能エネルギー利用率	3%以上	毎年	2.87%	消化ガス・太陽光・風力・小水力発電の活用継続	3.26%	消化ガス・太陽光・風力・小水力発電の活用継続	a	3%以上	消化ガス・太陽光発電等の活用継続	a
				二酸化炭素排出量削減	535t	毎年	373t	消化ガス・太陽光・風力・小水力発電の活用による二酸化炭素排出量削減	414t	消化ガス・太陽光・風力・小水力発電の活用による二酸化炭素排出量削減	b	535t	消化ガス・太陽光発電等の活用による二酸化炭素排出量削減	a
				新たな再生可能エネルギーの調査・研究	実施	毎年	実施	脱炭素化の局内ワーキングを実施	実施	新たな再生可能エネルギーの調査・研究の継続	a	実施	新たな再生可能エネルギーの調査・研究の継続	a
3-1-4 省エネルギーの推進				5年間の事業費(計画)			50百万円	R3事業費	2百万円	R4事業費	0百万円	R5事業費	28百万円	
				ポンプ場照明設備のLED化(累計)	1箇所/年(累計6箇所)	R7	1箇所(累計2箇所)	皇后崎浄化センター屋外照明LED化	1箇所(累計3箇所)	北湊浄化センターのLED化	a	1箇所(累計4箇所)	楠橋ポンプ場照明設備のLED化	a
				二酸化炭素排出量削減	25t/年(R2年度比)	R7	6t/年(R2年度比)	皇后崎浄化センター照明設備のLED化による二酸化炭素排出量削減	11.36t/年(R2年度比)前年度より5.36t増	照明設備のLED化による二酸化炭素排出量削減	a	16.57t/年(R2年度比)前年度より5t増	照明設備のLED化による二酸化炭素排出量削減	a
				新たな省エネルギー対策の調査・研究	実施	毎年	実施	脱炭素化の局内ワーキングを実施	実施	新たな省エネルギー対策の調査・研究	a	実施	新たな省エネルギー対策の調査・研究の継続	a
3-1-5 資源の有効利用				5年間の事業費(計画)			3,539百万円	R3事業費	677百万円	R4事業費	633百万円	R5事業費	713百万円	
				汚泥の有効利用率	100%	毎年	100%	セメント原料化・汚泥燃料化等実施	100%	セメント原料化・汚泥燃料化等実施	a	100%	セメント原料化・汚泥燃料化等実施肥料化に向けた研究実施	a

中期経営計画実施事業 R4年度達成状況・R5年度達成見込

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和3年度 決算		令和4年度 決算			令和5年度 予算		
				項目	目標	目標年度	単年度の 結果	取組内容	単年度の 結果	取組内容	達成 状況	単年度の 目標	取組内容	達成 見込
				3-2 環境負荷低減に向けた研究の推進										
				3-2-1 ウォータープラザ北九州の有効活用										
				5年間の事業費(計画) 22百万円			R3事業費	4百万円	R4事業費	3百万円		R5事業費	4百万円	
				見学者の受入れ	200人以上	毎年	0人	新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた海外研修生受入れ未実施	91人	水処理関係企業・団体への施設利用の促進、水処理ニーズに関する情報・人的交流の実施	a	200人以上	水処理関係企業・団体への施設利用の促進、水処理ニーズに関する情報・人的交流の実施	a
				7 健全な経営を行う										
				7-1 効率的・計画的な事業運営										
				7-1-1 上下水道施設の規模の最適化				1-1-2 再掲		1-1-2 再掲			1-1-2 再掲	
				7-1-2 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新				1-1-1 再掲		1-1-1 再掲			1-1-1 再掲	
				共通事業										
				4 国内外へ貢献していく										
				4-1 上下水道事業の発展的広域化										
				4-1-1 多様な広域連携の推進										
				5年間の事業費(計画) 74百万円			R3事業費	14百万円	R4事業費	12百万円		R5事業費	24百万円	
				地区別勉強会、セミナー開催	1回以上	毎年	4回	近隣自治体との勉強会、セミナーの開催	3回	近隣自治体との勉強会、セミナーの開催	a	1回以上	近隣自治体との勉強会、セミナーの開催	a
				技術研修の受入れ	7回以上	毎年	1回	近隣自治体職員の研修	5回	近隣自治体職員の研修	b'	7回以上	近隣自治体職員の研修受入れ	a
				4-1-2 外郭団体等との連携強化										
				5年間の事業費(計画) 5,343百万円			R3事業費	1,092百万円	R4事業費	1,104百万円		R5事業費	1,225百万円	
				宗像地区事務組合水道事業包括業務の受託	継続	毎年	継続	宗像地区事務組合(宗像市・福津市)の水道事業包括業務の受託継続	継続	宗像地区事務組合(宗像市・福津市)の水道事業包括業務の受託継続	a	継続	宗像地区事務組合(宗像市・福津市)の水道事業包括業務の受託継続	a
				受託業務の拡大	3件	R7	2件	北九州ウォーターサービスとの近隣自治体のニーズの共有、受注拡大への検討及び年次計画の検討	3件	北九州ウォーターサービスとの近隣自治体のニーズの共有、受注拡大への検討及び年次計画の検討	a	3件(累計6件)	北九州ウォーターサービスとの近隣自治体のニーズの共有、受注拡大への検討及び年次計画の検討	a
				4-2 本市の技術力・経験を生かした国際貢献										
				4-2-1 上下水道技術の国際協力										
				5年間の事業費(計画) 232百万円			R3事業費	0.3百万円	R4事業費	28百万円		R5事業費	61百万円	
				研修員受入れ	【~R3年度】 380人 【R4年度~】 180人	毎年	28人	海外技術者育成に係る研修員受入れ	107人	海外技術者育成に係る研修員受入れ	c'	100人	海外技術者育成に係る研修員受入れ	c
				職員派遣	4人	毎年	4人	国際技術協力に係る職員派遣	3人	国際技術協力に係る職員派遣	b'	22人	国際技術協力に係る職員派遣	a

中期経営計画実施事業 R4年度達成状況・R5年度達成見込

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和3年度 決算		令和4年度 決算			令和5年度 予算		
				項目	目標	目標年度	単年度の 結果	取組内容	単年度の 結果	取組内容	達成 状況	単年度の 目標	取組内容	達成 見込
				4-2-2 海外水ビジネスの推進・支援			R3事業費 49百万円		R4事業費 83百万円			R5事業費 115百万円		
				5年間の事業費(計画) 532百万円			R3事業費 49百万円		R4事業費 83百万円			R5事業費 115百万円		
				市が関与する ビジネス案件数	6件	毎年	6件	国際技術協力や企業の 海外水ビジネス支援	12件	国際技術協力や企業の 海外水ビジネス支援	a	6件	国際技術協力や企業の 海外水ビジネス支援	a
				5 お客さまが求めるものをかたちにする										
				5-1 お客さまの理解と信頼を得る										
				5-1-1 効果的な広報・広聴活動の推進			R3事業費 19百万円		R4事業費 17百万円			R5事業費 39百万円		
				5年間の事業費(計画) 243百万円			R3事業費 19百万円		R4事業費 17百万円			R5事業費 39百万円		
				広報活動による お客さまの認知度	向上	R7	向上	広報紙の発行、副読本の Web化等	継続	広報紙の発行、 キッズサイト(Web化した 副読本)の運用	a	向上	広報紙の発行、キッズサイ ト(Web化した副読本)の運 用、民間と協働で市制60周 年記念酒を製造	a
				広聴活動による お客さまニーズ の把握	推進	R7	推進	ニーズ把握のため、Webアン ケートを実施(回答者数: 91名、回数 予定2回→実 績:1回)	推進	上下水道モニターに対する アンケート調査等実施	a	継続	上下水道モニター アンケートによる ニーズの把握	a
				5-1-2 小学生を対象とした上下水道に関する情報発信			R3事業費 3百万円		R4事業費 1百万円			R5事業費 1百万円		
				5年間の事業費(計画) 7百万円			R3事業費 3百万円		R4事業費 1百万円			R5事業費 1百万円		
				出前授業	各区1校	毎年	各区1校	市内小学生を対象に体験 型学習を実施	各区1校以上 実施	市内小学生を対象に体験 型学習を実施	a	各区1校	市内小学生を対象に体験 型学習を実施	a
				5-2 お客さま満足度の向上										
				5-2-1 営業業務の見直し			R3事業費 0百万円		R4事業費 1百万円			R5事業費 -		
				5年間の事業費(計画) -			R3事業費 0百万円		R4事業費 1百万円			R5事業費 -		
ICT技術等を活用 した新たな施策の 調査・研究	推進	R7	口座振替イン ターネット 手続き (延期)	口座振替インターネット 手続きについて、他局と導 入時期をあわせることとし たため、導入時期をR3→R4 に変更 5-2-2 再掲	口座振替イン ターネット 手続き 開始	口座振替インターネット 手続きについて、 システム改修、運用開始 5-2-2 再掲	a	サービス向上 に関する調 査・研究	他都市照会によるICT技術等 活用の現況調査	a				
お客さまサービスの 評価向上	推進	R7	お客さま サービス向上	お客さまサービス向上の ために委託業務の管理・ 監督実施	お客さま サービス向上	お客さまサービス向上の ために委託業務の管理・ 監督実施	a	お客さま サービス向上	お客さまサービス向上の ために委託業務の管理・ 監督実施	a				
5-2-2 料金の支払や各種手続方法の拡充			R3事業費 0百万円		R4事業費 1百万円			R5事業費 1百万円						
5年間の事業費(計画) 20百万円			R3事業費 0百万円		R4事業費 1百万円			R5事業費 1百万円						
料金支払方法の 多様化、拡充	実施	R7	検討	スマートフォン決済取扱 機関の拡充、納付書払い の電子マネー利用等に ついて検討	検討	スマートフォン決済取扱 機関の拡充、納付書払い の電子マネー利用等に ついて検討	a	検討	スマートフォン決済取扱 機関の拡充、納付書払い の電子マネー利用等に ついて検討	b				
口座振替 インターネット 手続き	開始	R3	延期	他局と導入時期をあわせる こととしたため、導入時期 をR3→R4に変更	開始	口座振替インターネット 手続きについて、 システム改修、運用開始	a	R4開始済	-	a				

中期経営計画実施事業 R4年度達成状況・R5年度達成見込

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和3年度 決算		令和4年度 決算			令和5年度 予算				
				項目	目標	目標年度	単年度の 結果	取組内容	単年度の 結果	取組内容	達成 状況	単年度の 目標	取組内容	達成 見込		
				5-2-3 上下水道事業に関するアンケート調査の実施と施策への反映			5年間の事業費(計画) 6百万円		R3事業費 0.1百万円		R4事業費 0.1百万円			R5事業費 0.4百万円		
				アンケート調査を踏まえたお客さまニーズや課題への的確な対応	実施	R7	Webアンケートの実施	上下水道モニターを対象に、新たにWebでのアンケートを実施	モニターへアンケート調査実施	上下水道モニターへアンケート調査実施	a	モニターへアンケート調査実施	上下水道モニターへアンケート調査実施	a		
				6 培われた高い技術を未来へつなぐ												
				6-1 職員の育成と活用												
				6-1-1 上下水道技術の継承・人材の育成			5年間の事業費(計画) 148百万円		R3事業費 7百万円		R4事業費 12百万円			R5事業費 42百万円		
				研修時間(延べ)	1万時間以上	毎年	9,766時間	技術継承に取組むため、オンライン研修含め、局内研修や専門機関の研修を幅広く実施	12,918時間	技術継承に取組むため、オンライン研修含め、局内研修や専門機関の研修を幅広く実施	a	1万時間以上	研修の実施	a		
				職員の資格保有	1人平均2つ以上	毎年	2.5つ/人	局内研修等を通じて、職員に資格取得を促進	2.5つ/人	局内研修等を通じて、職員に資格取得を促進	a	1人平均2つ以上	資格取得の支援	a		
				インターンシップ受入れ	3件以上	毎年	0件	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、インターンシップ受入れ中止(ジョブナレーター業務での学生受入れは、計7名)	3件	以下のとおりインターンシップを受入れ ・市実施分:2名 ・局実施分(小倉工業):3名 ・局実施分(八幡工業):8名	a	3件以上	インターンシップの受入れ	a		
				6-1-2 AI等を活用した技術の蓄積・継承の研究			5年間の事業費(計画) 101百万円		R3事業費 1百万円		R4事業費 11百万円			R5事業費 29百万円		
				AI及びICTなどを活用した技術の蓄積・継承の取組	2件以上	R7	1件着手	AIを活用した維持管理手法の研究	1件実施中	AIを活用した維持管理手法の研究(R3から引き続き実施)	b	2件(累計)	①AIを活用した水道管劣化診断導入調査 ②衛星とAIを活用した漏水調査	a		
				6-1-3 上下水技術の国際協力					4-2-1 再掲		4-2-1 再掲			4-2-1 再掲		
				6-2 民間事業者等との連携推進												
				6-2-1 民間事業者等との連携推進			5年間の事業費(計画) -		R3事業費 0.2百万円		R4事業費 0百万円			R5事業費 -		
				業務の効率化・運営体制検討	推進	R7	実施	令和3年8月から、職員が行っているボトルドウォーターの搬出・保管・配送等の業務を委託化	推進	定型的な業務の自動化実施	a	検討	新たな業務の効率化・運営体制の見直し項目について検討	a		
				北九州ウォーターサービスや民間活力の活用	推進	R7	推進	北九州ウォーターサービスや民間事業者の活用に係る検討	推進	北九州ウォーターサービスや民間事業者の活用に係る検討	a	推進	北九州ウォーターサービスや民間事業者の活用に係る検討	a		
6-2-2 産学官連携による研究開発の推進			5年間の事業費(計画) 17百万円		R3事業費 3百万円		R4事業費 3百万円			R5事業費 3百万円						
新技術等の調査研究	1件以上	毎年	4件実施	民間企業等による実証実験の支援	6件実施	民間企業等による実証実験の支援	a	1件以上	民間企業等による実証実験の支援	a						

中期経営計画実施事業 R4年度達成状況・R5年度達成見込

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和3年度 決算		令和4年度 決算			令和5年度 予算			
				項目	目標	目標年度	単年度の 結果	取組内容	単年度の 結果	取組内容	達成 状況	単年度の 目標	取組内容	達成 見込	
7				健全な経営を行う											
				7-1 効率的・計画的な事業運営											
				7-1-3 民間事業者等との連携推進			6-2-1 再掲		6-2-1 再掲			6-2-1 再掲			
				7-1-4 AIやICTを活用した業務の効率化											
				5年間の事業費(計画)			-		R3事業費 59百万円		R4事業費 97百万円		R5事業費 71百万円		
				効率化の取組件数	5件以上	R7	4件	①給水装置・排水設備事務の効率化(下水道台帳のWeb公開) ②工水のスマート検針による効率化 ③会議や研修の効率化(Web会議の導入・オンライン研修の活用) ④施設運転維持管理の効率化(設備台帳システム構築)	新規2件(累計6件)	【新規】 ⑤水道のスマートメーター実証実験 ⑥営業業務の効率化(口座振替インターネット手続き導入(5-2-2 再掲)) 【継続】 ①給水装置・排水設備事務の効率化(下水道台帳のWeb公開)、②工水のスマート検針による効率化、③会議や研修の効率化、④施設運転維持管理の効率化	a	新規1件(累計7件)	【新規】 ⑦工事立合受付WEBシステムの導入 【継続】 ①給水装置・排水設備事務の効率化、②工水のスマート検針による効率化、③会議や研修の効率化、④施設運転維持管理の効率化、⑤水道のスマートメーター実証実験、⑥営業業務の効率化	a	
				7-2 多様な収入の確保											
				7-2-1 資産の有効活用											
				5年間の収入額(計画)			538百万円		R3収入額 157百万円		R4収入額 99百万円		R5収入額 198百万円		
				資産の利活用による収入	1億円以上	毎年	1億円以上	土地貸付等による収入の確保	約1億円	土地貸付等による収入の確保	b	1億円以上	土地貸付等による収入の確保	a	
				7-2-3 多様な広域連携の推進			4-1-1 再掲		4-1-1 再掲			4-1-1 再掲			
				7-3 経営基盤強化に向けた検討											
				7-3-1 料金体系のあり方の検討											
				5年間の事業費(計画)			-		R3事業費 -		R4事業費 -		R5事業費 -		
				料金体系の検討	実施	R7	実施	直近の実績(R2決算)や予定(R4予算)を踏まえた検討実施	実施	直近の実績(R3決算)や予定(R5予算)を踏まえた検討実施	a	実施	直近の実績(R4決算)や予定(R5予算)を踏まえた検討実施	a	
料金に関するアンケート調査	実施	R7	R7実施	-	R7実施	-	R7実施	-	R7実施	-					
7-3-2 外部検討会の開催															
5年間の事業費(計画)			9百万円		R3事業費 0.3百万円		R4事業費 0百万円		R5事業費 1百万円						
開催	2回	毎年	2回	中期経営計画の進捗の報告(H28~R2実績、R3予算)	2回	中期経営計画の進捗の報告(R3決算、R4予算)下水道使用料の減免のあり方検討	a	2回	中期経営計画の進捗の報告等	a					

2 財政計画の進捗管理

(1) 令和4年度決算の経営状況

【上水道事業会計】

〈水道事業〉

- 収益的収支は、4.5億円の黒字
- 単年度資金収支は、8.7億円のマイナス
(累積資金剰余 46.1億円)
- 企業債残高は、581.0億円

〈水道用水供給事業〉

- 収益的収支は、0.7億円の黒字
- 単年度資金収支は、0.7億円の黒字
(累積資金剰余 0.9億円)
- 企業債残高は、33.3億円

【工業用水道事業会計】

- 収益的収支は、3.2億円の黒字
- 単年度資金収支は、1.3億円のマイナス
(累積資金剰余 19.0億円)
- 企業債残高は、14.1億円

【下水道事業会計】

- 収益的収支は、6.7億円の黒字
- 単年度資金収支は、0.3億円のマイナス
(累積資金剰余 34.2億円)
- 企業債残高は、1,418.7億円

(単位：百万円)

	上水道事業		小計	工業用 水道事業	下水道 事業	合計
	水道事業	水道用水 供給事業				
収益的収入	19,464	863	20,327	1,964	27,091	49,382
料金(使用料)収入	15,159	764	15,923	1,730	14,484	32,138
収益的支出	19,012	791	19,803	1,644	26,423	47,870
収支差引	451	72	523	320	668	1,512
資本的収入	4,222	0	4,223	49	11,105	15,376
資本的支出	12,236	197	12,433	976	23,851	37,261
収支差引	▲8,014	▲197	▲8,211	▲927	▲12,746	▲21,885
補填財源	7,140	263	7,403	794	12,716	20,912
単年度資金収支	▲874	66	▲808	▲134	▲31	▲973
計画	▲844	74	▲770	6	▲569	▲1,333
計画比(決算-計画)	▲30	▲9	▲39	▲139	538	360
累積資金剰余	4,610	92	4,702	1,900	3,416	10,017
計画	4,173	76	4,250	1,915	2,650	8,815
計画比(決算-計画)	436	15	452	▲15	766	1,203
企業債残高	58,099	3,327	61,425	1,414	141,872	204,712
計画	59,375	3,326	62,701	1,811	144,067	208,579
計画比(決算-計画)	▲1,276	1	▲1,275	▲397	▲2,195	▲3,867

※表中の数字は四捨五入による端数調整をしていないため、内訳と合計などは必ずしも一致しない。

(2) 令和5年度予算の経営状況

【上水道事業会計】

〈水道事業〉

- 収益的収支は、3.7億円のマイナス
- 単年度資金収支は、17.2億円のマイナス
(累積資金剰余 28.9億円)
- 企業債残高は、616.5億円

〈水道用水供給事業〉

- 収益的収支は、6百万円の黒字
- 単年度資金収支は、9百万円のマイナス
(累積資金剰余 0.8億円)
- 企業債残高は、31.6億円

【工業用水道事業会計】

- 収益的収支は、0.9億円の黒字
- 単年度資金収支は、3.0億円のマイナス
(累積資金剰余 16.0億円)
- 企業債残高は、22.1億円

【下水道事業会計】

- 収益的収支は、2.6億円のマイナス
- 単年度資金収支は、5.1億円のマイナス
(累積資金剰余 29.0億円)
- 企業債残高は、1,429.7億円

(単位：百万円)

	上水道事業			工業用 水道事業	下水道 事業	合計
	水道事業	水道用水 供給事業	小計			
収益的収入	20,085	906	20,991	1,999	27,467	50,456
料金(使用料)収入	15,301	791	16,092	1,722	14,525	32,339
収益的支出	20,457	899	21,356	1,909	27,725	50,990
収支差引	▲372	6	▲366	90	▲258	▲534
資本的収入	5,317	87	5,404	1,063	13,951	20,419
資本的支出	14,049	318	14,366	1,957	24,517	40,841
収支差引	▲8,731	▲231	▲8,962	▲894	▲10,566	▲20,421
補填財源	7,011	222	7,233	594	10,053	17,879
単年度資金収支	▲1,721	▲9	▲1,729	▲300	▲513	▲2,542
計画	▲947	72	▲875	▲308	92	▲1,091
計画比(予算-計画)	▲773	▲80	▲854	8	▲605	▲1,451
累積資金剰余	2,889	83	2,972	1,600	2,903	7,475
計画	3,226	148	3,375	1,607	2,742	7,724
計画比(予算-計画)	▲337	▲65	▲402	▲7	160	▲249
企業債残高	61,648	3,162	64,811	2,211	142,967	209,989
計画	59,380	3,140	62,520	1,808	141,717	206,045
計画比(予算-計画)	2,268	23	2,291	403	1,250	3,944

※表中の数字は四捨五入による端数調整をしていないため、内訳と合計などは必ずしも一致しない。

※累積資金剰余や企業債残高はR4年度決算も反映後の数値。

(3)水道事業

①総括表

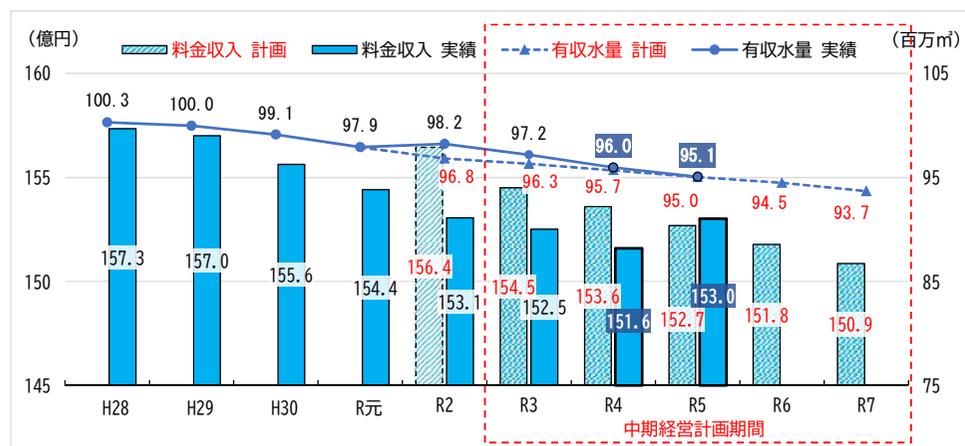
(単位：百万円、消費税込)

	R3年度	R4年度						R5年度				
	決算 (A)	計画 (B)	予算 (C)	決算 (D)	前年度比 (D-A)	計画比 (D-B)	予算比 (D-C)	計画 (E)	予算 (F)	前年度比 (F-C)	計画比 (F-E)	
配水量 (千m ³ /年)	107,250	105,708	105,733	106,537	▲ 713	829	804	104,894	104,918	▲ 815	24	
有収水量 (千m ³ /年)	97,172	95,666	95,689	95,954	▲ 1,218	288	265	95,034	95,056	▲ 633	22	
有収率 (%)	90.6	90.5	90.5	90.1	▲ 0.5	▲ 0.4	▲ 0.4	90.6	90.6	0.1	0.0	
収益的収支	収益的収入 ①	19,516	20,037	19,996	19,464	▲ 52	▲ 574	▲ 533	19,851	20,085	89	233
	料金収入 (原水除く)	15,251	15,359	15,331	15,159	▲ 92	▲ 200	▲ 171	15,269	15,301	▲ 29	33
	口径別納付金	378	451	416	395	17	▲ 56	▲ 21	451	409	▲ 7	▲ 43
	その他	3,887	4,227	4,250	3,909	22	▲ 317	▲ 341	4,131	4,375	125	243
	収益的支出 ②	18,258	19,354	19,667	19,012	754	▲ 342	▲ 655	19,428	20,457	790	1,028
	人件費	2,215	2,700	2,603	2,363	148	▲ 336	▲ 240	2,700	2,558	▲ 45	▲ 142
	維持管理費	2,969	3,197	3,280	3,073	104	▲ 124	▲ 207	3,173	3,339	59	166
	減価償却費等	8,408	8,196	8,496	8,445	37	249	▲ 51	8,248	8,656	160	408
	企業債利息	741	755	759	691	▲ 50	▲ 64	▲ 69	731	707	▲ 52	▲ 24
	その他	3,925	4,506	4,528	4,440	515	▲ 67	▲ 88	4,577	5,197	668	619
収支差引 ③=①-②	1,258	683	329	451	▲ 806	▲ 232	122	423	▲ 372	▲ 701	▲ 795	
資本的収支	資本的収入 ④	4,670	4,963	5,719	4,222	▲ 447	▲ 741	▲ 1,496	4,072	5,317	▲ 401	1,246
	企業債	3,400	3,170	3,878	3,012	▲ 388	▲ 158	▲ 866	3,270	4,347	469	1,077
	基金繰入金	1,000	991	992	991	▲ 9	▲ 1	▲ 1	0	0	▲ 992	0
	その他	270	802	849	220	▲ 50	▲ 582	▲ 630	802	970	121	169
	資本的支出 ⑤	12,097	13,751	14,463	12,236	139	▲ 1,515	▲ 2,226	12,763	14,049	▲ 414	1,286
	整備費	7,755	8,886	9,360	7,901	146	▲ 985	▲ 1,458	8,047	9,025	▲ 335	978
	企業債償還金	3,394	3,351	3,356	3,351	▲ 44	0	▲ 5	3,264	3,306	▲ 50	42
その他	947	1,514	1,747	984	36	▲ 530	▲ 763	1,452	1,717	▲ 30	266	
収支差引 ⑥=④-⑤	▲ 7,427	▲ 8,788	▲ 8,744	▲ 8,014	▲ 587	774	730	▲ 8,691	▲ 8,731	12	▲ 40	
補填財源 ⑦	7,250	7,944	7,346	7,140	▲ 111	▲ 804	▲ 206	7,744	7,011	▲ 335	▲ 733	
単年度資金収支 ⑧=⑥+⑦	▲ 177	▲ 844	▲ 1,398	▲ 874	▲ 697	▲ 30	524	▲ 947	▲ 1,721	▲ 323	▲ 773	
累積資金剰余 ⑨	5,484	4,174	4,086	4,610	▲ 874	436	524	3,226	2,889	▲ 1,197	▲ 337	
基金残高 ⑩	991	0	0	0	▲ 991	0	0	0	0	0	0	
累積資金剰余 (基金含む) ⑪=⑨+⑩	6,475	4,174	4,086	4,610	▲ 1,865	436	524	3,226	2,889	▲ 1,197	▲ 337	
企業債残高	58,437	59,375	60,602	58,099	▲ 339	▲ 1,276	▲ 2,504	59,380	61,648	1,046	2,268	

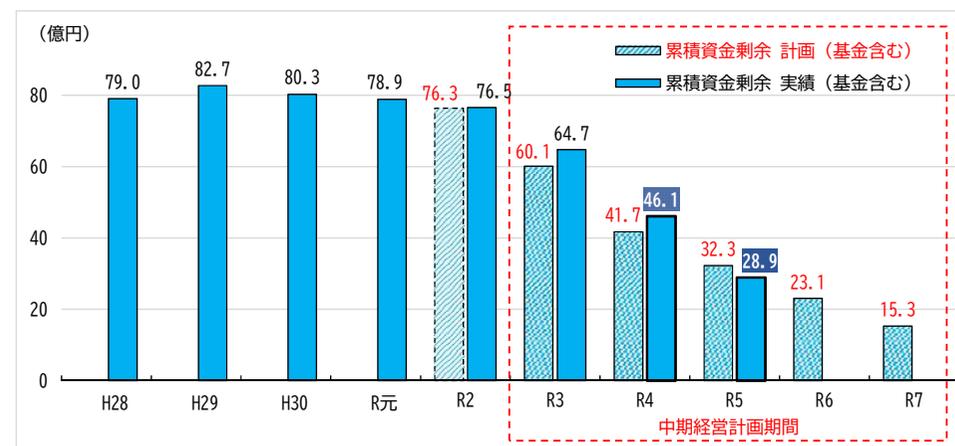
※表中の数字は四捨五入による端数調整をしていないため、内訳と計は必ずしも一致しない。

② 推移 (実績はR4までは決算値、R5は予算値)

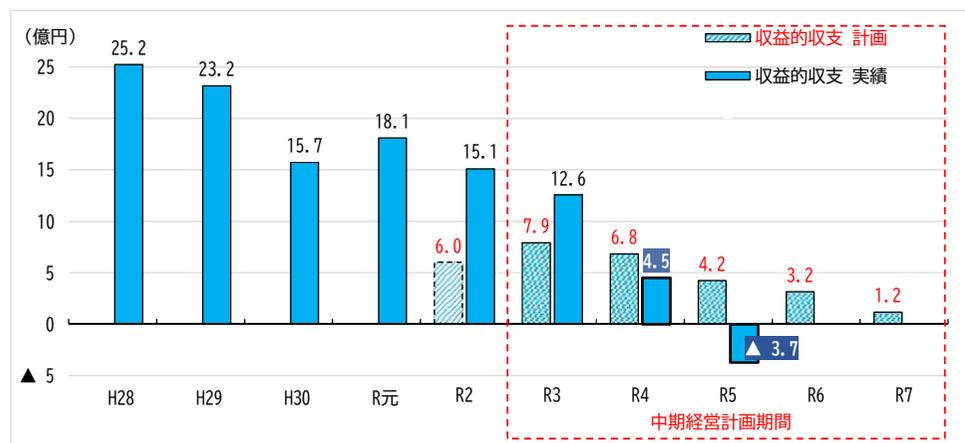
【料金収入・有収水量の推移】



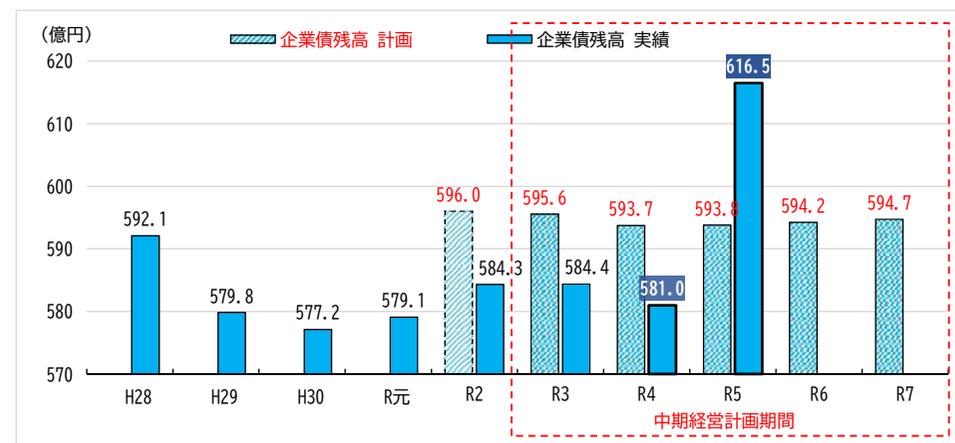
【累積資金剰余の推移】



【収益的収支の推移】



【企業債残高の推移】



※R5年度の企業債残高にはR4年度からR5年度に繰り越した整備費の財源となる企業債25.1億円を含む

③ 総論

【R4年度決算】

料金収入が計画値を下回ったことに加え、浄化費用が増加したことなどが原因で、収益的収支は計画値を下回ったが、整備費が計画値を下回ったことにより累積資金剰余は計画値を上回った。

また、令和2年度末の時点で企業債の残高が見込みを下回っていたことに加え、令和4年度の新規の企業債の発行額が計画値を下回ったことから、令和4年度末時点の企業債残高は、計画値を下回ることとなった。

【R5年度予算】

浄化費用や維持管理費が増加したことなどが原因で、収益的収支は計画値を下回り、累積資金剰余も計画値より減少している。

また、整備費の増加に伴い企業債の発行額も増加する見込みで、その結果、企業債残高は計画値を上回る見込みとなった。

(4)水道用水供給事業

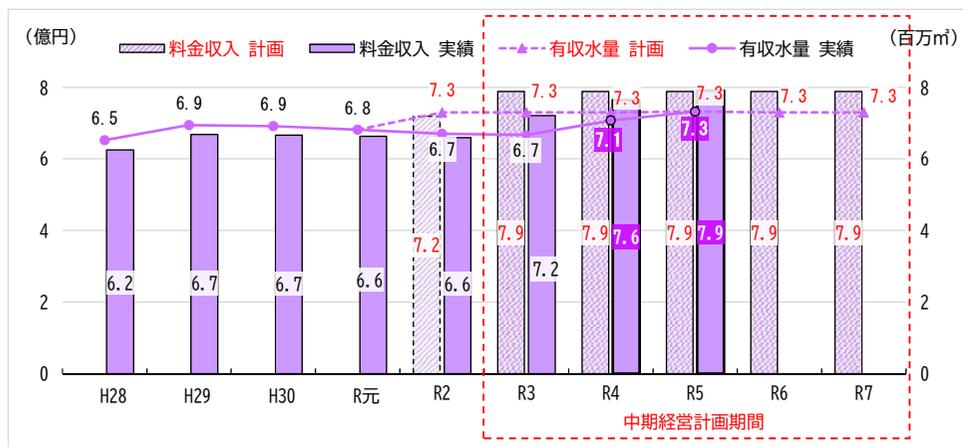
(単位：百万円、消費税込)

	R3年度	R4年度						R5年度				
	決算 (A)	計画 (B)	予算 (C)	決算 (D)	前年度比 (D-A)	計画比 (D-B)	予算比 (D-C)	計画 (E)	予算 (F)	前年度比 (F-C)	計画比 (F-E)	
有収水量 (千m ³ /年)	6,672	7,300	7,300	7,073	401	▲ 227	▲ 227	7,320	7,320	20	0	
収益的収支	収益的収入 ①	817	904	904	863	46	▲ 41	▲ 41	905	906	2	1
	料金収入	721	788	788	764	43	▲ 24	▲ 24	788	791	2	2
	その他	96	116	116	99	3	▲ 16	▲ 16	117	115	0	▲ 1
	収益的支出 ②	740	830	821	791	51	▲ 39	▲ 29	827	899	79	72
	人件費	44	62	56	45	1	▲ 17	▲ 11	62	57	1	▲ 5
	維持管理費	174	223	216	185	11	▲ 38	▲ 31	221	208	▲ 8	▲ 13
	減価償却費等	311	307	306	304	▲ 7	▲ 3	▲ 2	309	306	0	▲ 3
	企業債利息	72	70	70	69	▲ 4	▲ 1	▲ 1	66	66	▲ 4	0
その他	139	168	173	188	49	20	15	169	263	90	94	
収支差引 ③=①-②	77	74	83	72	▲ 5	▲ 2	▲ 11	78	6	▲ 77	▲ 71	
資本的収支	資本的収入 ④	0	20	21	0	0	▲ 20	▲ 20	20	87	67	67
	資本的支出 ⑤	184	238	247	197	13	▲ 40	▲ 49	246	318	71	72
	整備費	5	35	43	15	10	▲ 20	▲ 29	39	67	23	28
	企業債償還金	179	183	183	183	4	0	▲ 1	186	187	4	1
	その他	0	20	20	0	0	▲ 20	▲ 20	20	64	44	44
収支差引 ⑥=④-⑤	▲ 184	▲ 218	▲ 226	▲ 197	▲ 13	21	29	▲ 226	▲ 231	▲ 4	▲ 5	
補填財源 ⑦	294	292	299	263	▲ 31	▲ 29	▲ 36	297	222	▲ 77	▲ 75	
単年度資金収支 ⑧=⑥+⑦	110	74	73	66	▲ 44	▲ 9	▲ 7	71	▲ 9	▲ 82	▲ 80	
累積資金剰余 ⑨	26	76	99	92	66	15	▲ 7	148	83	▲ 16	▲ 65	
企業債残高	3,509	3,326	3,326	3,327	▲ 183	1	1	3,140	3,163	▲ 163	23	

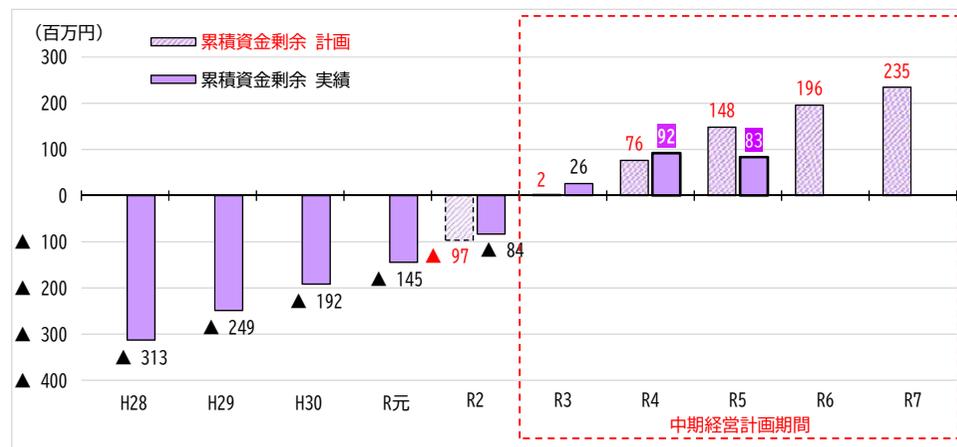
※表中の数字は四捨五入による端数調整をしていないため、内訳と計は必ずしも一致しない。

② 推移 (実績はR4までは決算値、R5は予算値)

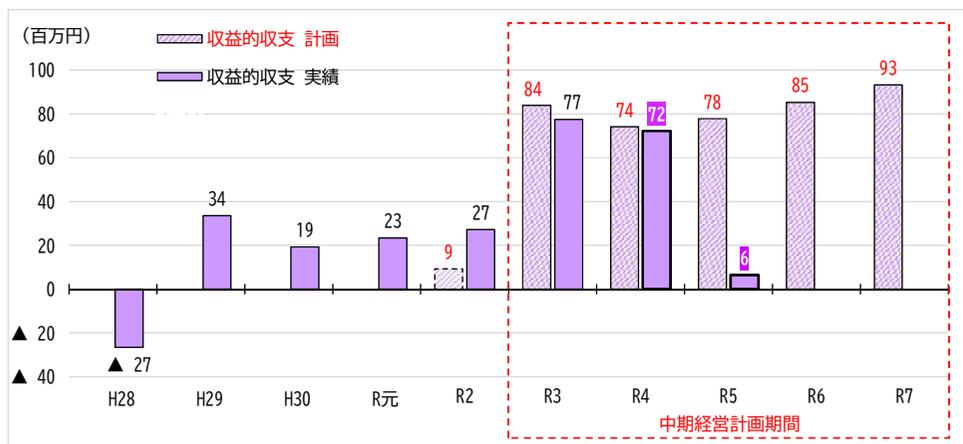
【料金収入・有収水量の推移】



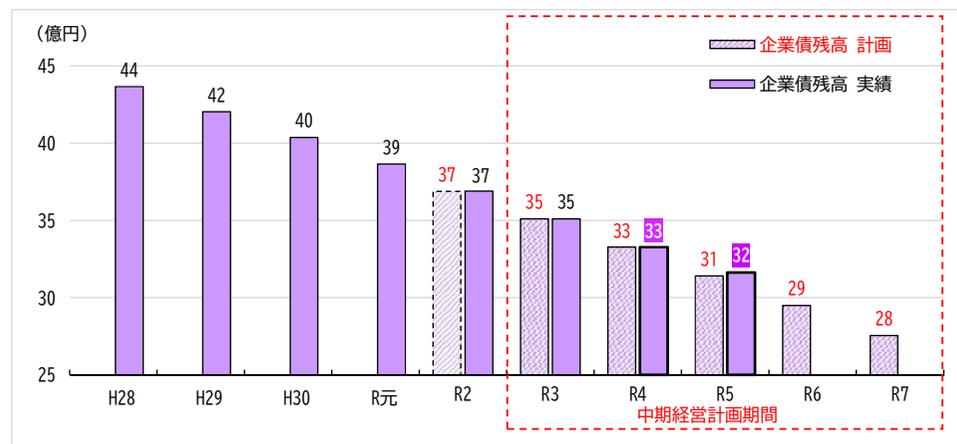
【累積資金剰余の推移】



【収益的収支の推移】



【企業債残高の推移】



③ 総論

【R4年度決算】

料金収入については計画値を下回ったものの、人件費や維持管理費、整備費などの支出も計画値を下回った結果、収益的収支については計画値と概ね同程度となり、累積資金剰余については計画値を上回ることとなった。

また、新規の企業債の発行がないこと、予定どおり企業債の償還を行っていることから、企業債残高については計画値と同額となった。

【R5年度予算】

浄化費用が増加したことが原因で、収益的収支は計画値を下回り、累積資金剰余も計画値より減少している。

また、整備費の増加に伴い企業債の発行額も増加する見込みで、その結果、企業債残高は計画値を若干上回る見込みとなった。

(5)工業用水道事業

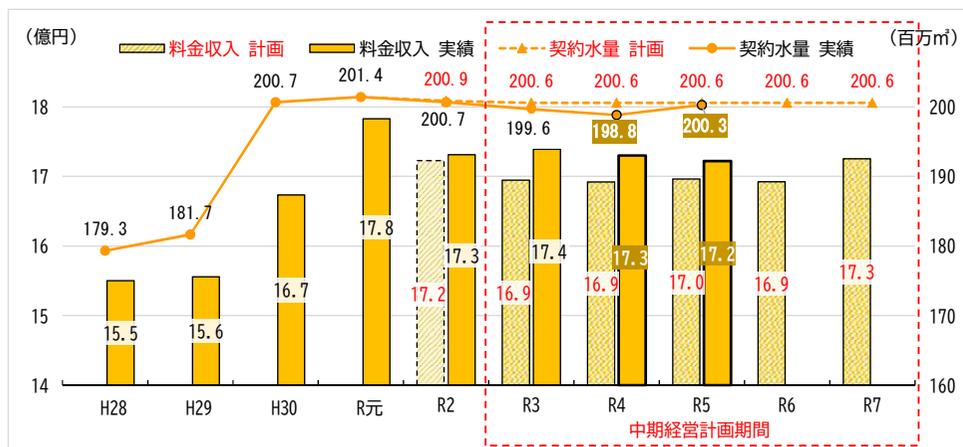
(単位：百万円、消費税込)

	R3年度	R4年度						R5年度				
	決算 (A)	計画 (B)	予算 (C)	決算 (D)	前年度比 (D-A)	計画比 (D-B)	予算比 (D-C)	計画 (E)	予算 (F)	前年度比 (F-C)	計画比 (F-E)	
契約水量 (千m ³ /日)	200	201	201	200	0	▲ 1	▲ 1	201	200	0	0	
収益的収支	収益的収入 ①	1,970	1,975	2,000	1,964	▲ 6	▲ 12	▲ 37	1,983	1,999	▲ 1	16
	料金収入	1,739	1,692	1,723	1,730	▲ 9	38	7	1,696	1,722	▲ 1	26
	その他	231	283	277	234	3	▲ 49	▲ 43	287	277	0	▲ 10
	収益的支出 ②	1,463	1,761	1,723	1,644	180	▲ 118	▲ 79	1,735	1,909	186	174
	人件費	180	240	248	229	50	▲ 11	▲ 18	240	247	0	7
	維持管理費	297	360	345	312	15	▲ 48	▲ 33	351	369	24	18
	減価償却費等	669	688	686	684	14	▲ 5	▲ 2	707	709	23	2
	企業債利息	23	25	25	20	▲ 3	▲ 5	▲ 5	24	22	▲ 3	▲ 2
	その他	294	448	419	399	105	▲ 49	▲ 20	413	562	143	149
	収支差引 ③=①-②	506	213	278	320	▲ 186	106	42	249	90	▲ 188	▲ 158
資本的収支	資本的収入 ④	65	272	296	49	▲ 16	▲ 223	▲ 247	310	1,063	767	753
	企業債	23	110	143	18	▲ 5	▲ 92	▲ 125	140	798	655	658
	国庫補助金	43	34	25	28	▲ 14	▲ 6	3	42	50	25	8
	その他	0	128	128	3	3	▲ 125	▲ 125	128	215	88	88
	資本的支出 ⑤	875	955	1,155	976	101	20	▲ 179	1,356	1,957	802	601
	整備費	679	628	814	731	51	103	▲ 83	1,049	1,508	694	459
	企業債償還金	160	140	140	140	▲ 20	0	▲ 1	143	144	4	1
	その他	36	187	200	105	70	▲ 82	▲ 95	164	305	105	141
収支差引 ⑥=④-⑤	▲ 810	▲ 683	▲ 859	▲ 927	▲ 117	▲ 244	▲ 69	▲ 1,046	▲ 894	▲ 35	153	
補填財源 ⑦	713	689	760	794	80	105	34	739	594	▲ 166	▲ 145	
単年度資金収支 ⑧=⑥+⑦	▲ 97	6	▲ 99	▲ 134	▲ 37	▲ 139	▲ 35	▲ 308	▲ 300	▲ 201	8	
累積資金剰余 ⑨	2,034	1,915	1,935	1,900	▲ 134	▲ 15	▲ 35	1,607	1,600	▲ 334	▲ 7	
企業債残高	1,536	1,811	1,659	1,414	▲ 122	▲ 397	▲ 245	1,808	2,211	552	403	

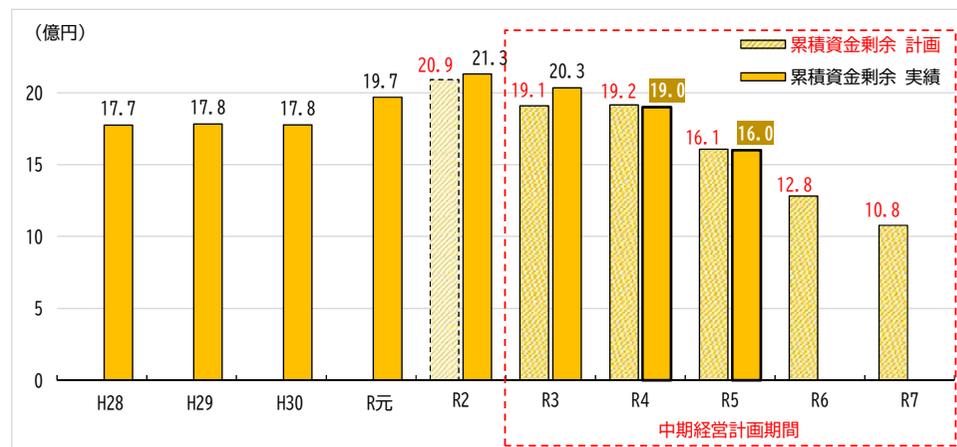
※表中の数字は四捨五入による端数調整をしていないため、内訳と計は必ずしも一致しない。

② 推移 (実績はR4までは決算値、R5は予算値)

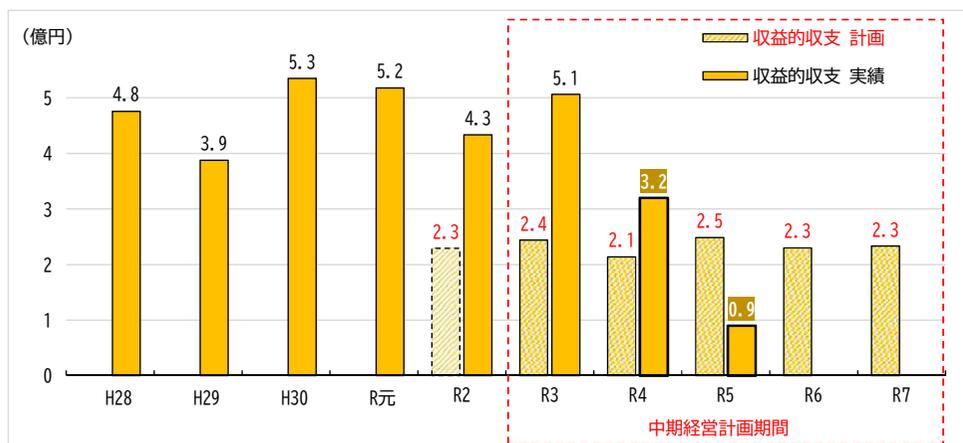
【料金収入・契約水量の推移】



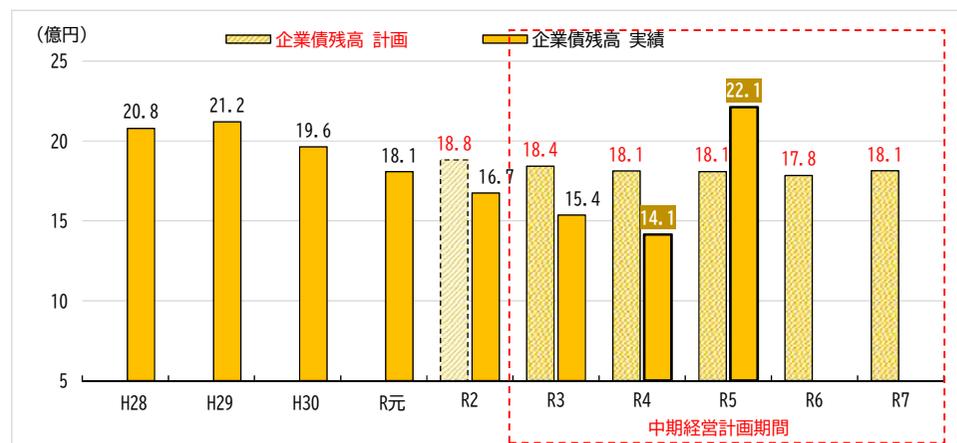
【累積資金剰余の推移】



【収益的収支の推移】



【企業債残高の推移】



※R5年度の企業債残高にはR4年度からR5年度に繰り越した整備費の財源となる企業債1.4億円を含む

③ 総論

【R4年度決算】

料金収入が計画値を上回り、人件費や維持管理費などの支出が計画値を下回った結果、収益的収支は計画値を上回ったが、整備費が計画値を上回ったことなどから累積資金剰余はほぼ計画値と同額になった。

また、新規の企業債の発行額が計画値を下回ったことなどから、企業債残高については計画値を下回ることとなった。

【R5年度予算】

浄化費用が増加したことなどが原因で、収益的収支は計画値を下回っている。

また整備費と、その財源とする企業債発行額の増加により、累積資金剰余は計画値と概ね同額であるが、企業債残高は計画値を上回る見込みとなった。

(6)下水道事業

(単位：百万円、消費税込)

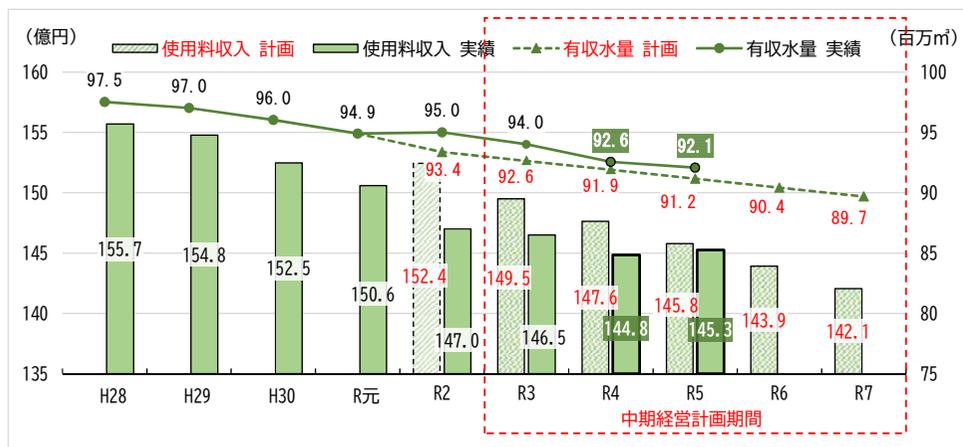
	R3年度	R4年度						R5年度				
	決算 (A)	計画 (B)	予算 (C)	決算 (D)	前年度比 (D-A)	計画比 (D-B)	予算比 (D-C)	計画 (E)	予算 (F)	前年度比 (F-C)	計画比 (F-E)	
有収水量 (千㎡/年)	94,012	91,899	92,275	92,552	▲ 1,460	653	277	91,160	92,073	▲ 202	913	
収益的収支	収益的収入 ①	27,258	27,737	27,235	27,091	▲ 167	▲ 646	▲ 143	27,326	27,467	232	141
	下水道使用料収入	14,650	14,764	14,660	14,484	▲ 165	▲ 280	▲ 176	14,578	14,525	▲ 134	▲ 53
	一般会計繰入金	5,781	6,227	6,100	5,851	70	▲ 376	▲ 250	6,009	6,082	▲ 18	73
	その他	6,828	6,746	6,475	6,756	▲ 71	10	282	6,739	6,860	385	120
	収益的支出 ②	26,566	27,114	26,836	26,423	▲ 143	▲ 692	▲ 413	27,025	27,725	889	701
	人件費	870	1,102	1,090	866	▲ 4	▲ 237	▲ 224	1,102	1,062	▲ 28	▲ 41
	維持管理費	5,925	6,418	6,480	6,221	296	▲ 197	▲ 258	6,416	7,296	816	880
	減価償却費等	16,992	16,403	16,198	16,718	▲ 274	316	520	16,354	16,346	148	▲ 9
	企業債利息	1,639	1,713	1,556	1,457	▲ 182	▲ 256	▲ 99	1,673	1,368	▲ 188	▲ 305
	その他	1,140	1,478	1,513	1,161	20	▲ 319	▲ 352	1,480	1,655	142	176
収支差引 ③=①-②	692	623	398	668	▲ 23	46	270	302	▲ 258	▲ 657	▲ 560	
資本的収支	資本的収入 ④	14,218	13,340	(13,550) 12,713	11,105	▲ 3,113	▲ 2,235	(▲2,445) ▲ 1,608	14,221	(14,196) 13,951	(646) 1,238	(▲25) ▲ 269
	企業債	7,114	6,372	(6,509) 6,091	4,621	▲ 2,493	▲ 1,751	(▲1,888) ▲ 1,470	6,348	(6,573) 6,451	(64) 360	(225) 103
	国庫補助金	4,936	4,916	(4,976) 4,557	4,667	▲ 269	▲ 249	110	4,945	(4,987) 4,864	(11) 307	(42) ▲ 81
	その他	2,167	2,052	2,065	1,817	▲ 351	▲ 236	▲ 248	2,928	2,636	571	▲ 292
	資本的支出 ⑤	24,334	25,171	(24,803) 23,966	23,851	▲ 483	▲ 1,320	(▲952) ▲ 114	25,058	(24,762) 24,517	(▲41) 552	(▲296) ▲ 541
	整備費	12,275	12,412	(12,412) 11,575	12,035	▲ 240	▲ 377	(▲377) 461	12,410	(12,410) 12,165	(▲2) 591	(0) ▲ 245
	企業債償還金	9,063	8,737	8,737	8,737	▲ 326	0	0	8,698	8,698	▲ 39	0
	その他	2,996	4,022	3,654	3,079	83	▲ 943	▲ 575	3,950	3,654	0	▲ 296
	収支差引 ⑥=④-⑤	▲ 10,117	▲ 11,831	▲ 11,253	▲ 12,746	▲ 2,629	▲ 915	▲ 1,494	▲ 10,837	▲ 10,566	687	271
	補填財源 ⑦	9,983	11,262	10,645	12,716	2,733	1,453	2,071	10,930	10,053	▲ 592	▲ 877
単年度資金収支 ⑧=⑥+⑦	▲ 134	▲ 569	▲ 608	▲ 31	103	538	577	92	▲ 513	95	▲ 605	
累積資金剰余 ⑨	3,446	2,650	2,839	3,416	▲ 31	766	577	2,742	2,903	64	160	
企業債残高	145,988	144,067	145,358	141,872	▲ 4,116	▲ 2,195	▲ 3,486	141,717	142,967	▲ 2,391	1,250	

※上段赤字カッコ書きは、前年度の3月補正予算を含んだ額

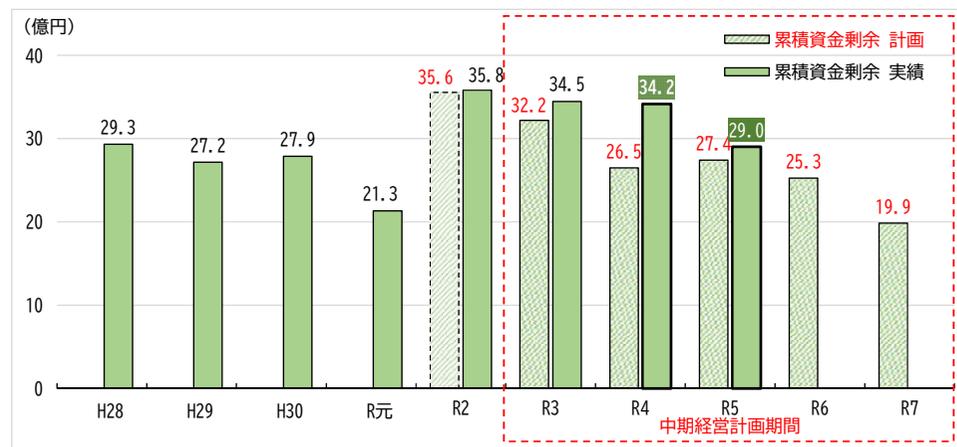
※表中の数字は四捨五入による端数調整をしていないため、内訳と計は必ずしも一致しない。

② 推移 (実績はR4までは決算値、R5は予算値)

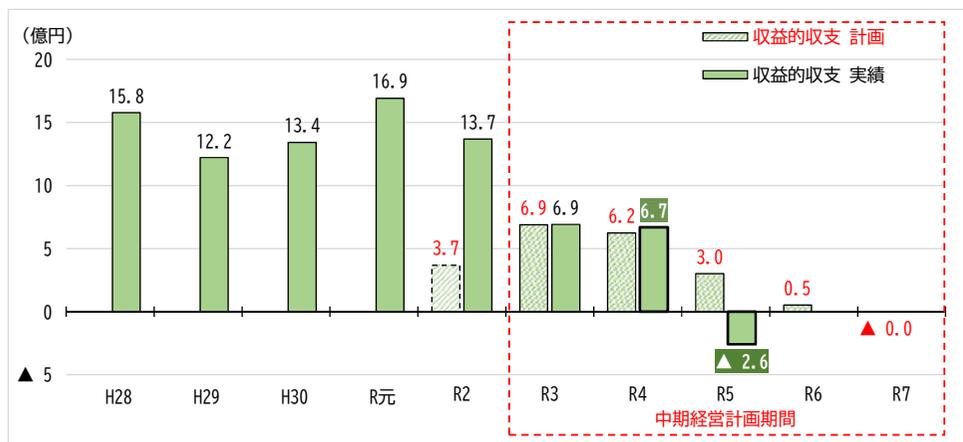
【使用料収入・有収水量の推移】



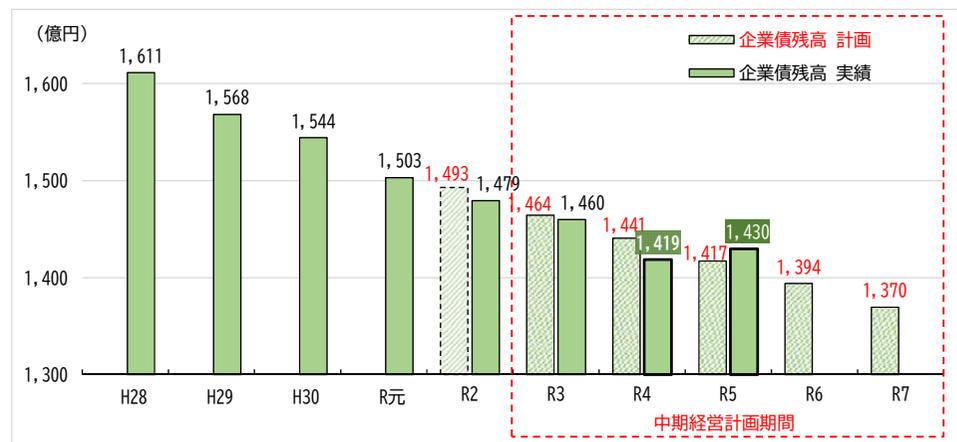
【累積資金剰余の推移】



【収益的収支の推移】



【企業債残高の推移】



※R5年度の企業債残高にはR4年度からR5年度に繰り越した整備費の財源となる企業債33.4億円を含む

③ 総論

【R4年度決算】

使用料収入は計画値を下回ったが、人件費や維持管理費などの支出も計画値を下回った結果、収益的収支と累積資金剰余は計画値を上回った。

また、令和2年度の時点で企業債の残高が見込みを下回っていたことに加え、令和4年度の新規の企業債の発行額が計画値を下回ったことから、令和4年度末時点の企業債残高は、計画値を下回るものとなった。

【R5年度予算】

維持管理費（主に動力費）が増加したなどが原因で、収益的収支は計画値を下回る見込みであるが、累積資金剰余は令和4年度の時点で計画値を大きく上回っていたことから、令和5年度時点でも計画値を若干上回っている。

また、企業債の発行額が計画値を上回ったことなどから、企業債残高は計画値を上回る見込みとなった。